

2016年度 年 報  
—自己点検・評価報告書—

天使大学大学院助産研究科

## はじめに

天使大学はカトリック大学としてのミッションを担って教育・研究に当たってきましたが、2017年は学園創立70周年の記念の年に当たります。これまでの本学園の歩みを支えて下さった関係者の皆様と神に感謝すると共に、これからの歩みの上に御導きを祈るものであります。今後に関しては特に、大学院の充実を重点目標の一つに挙げてきましたが、教員組織の充実と学生確保が課題です。

専門職大学院としてのこれまでの歩みを振り返り、将来への展望を切り開く必要があり、その在り方の検討を始めようとしております。優れた臨床力を備え、また客観的に自己の力を批判的に吟味できる修了生を社会に送り出すためにはどのような在り方が必要か、教員組織、学生募集、実習の在り方、市内の臨地実習先確保、臨床研究、等々について多面的な検討を要します。

さて、本学の教員には、そのミッションに適う教育・研究活動を行っているか、所属する教育研究組織が適切に活動しているかについての自己吟味が求められます。そのために計画・実行した教育・研究活動について自らが評価して改善していくPDCAサイクルがあり、自己点検評価に関する方針・実施基準に基づきその実施・報告に関する事項を自己点検評価委員会が担っています。助産研究科のさらなる前進のために自己点検評価委員会が引き続き、本活動を熱心に推進されることを期待しております。

ここに2016年度年報をお届け申し上げます。学外関係者の皆様におかれましては、平素の本学の運営へのご理解、ご支援を深く感謝申し上げますと共に、本年報にお目を通し頂き、ご意見、ご批判を頂ければ幸いに存じます。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

2017年6月

天使大学  
学長 武藏 学



# 自己点検・評価報告書

## 目 次

I. 教育課程	1
II. 院生の受け入れ	2
III. 教員組織	3
IV. 研究活動・研究環境	4
V. F D活動等	6
VI. 社会貢献	7
VII. 国際交流	11
VIII. 学生生活・就職支援	12
IX. 図書館	15
X. 情報処理システム	16
XI. 施設・設備	17
XII. 管理運営	18
XIII. 財務	19
XIV. 事務組織	20
XV. 自己点検・評価活動	21

# I. 教育課程

担 当：助産研究科教務委員会（教務）

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習指導環境の充実</li> <li>2. 実習評価の検討</li> </ol>
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習指導環境の充実             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 基礎分野1年基礎実習では、札幌市内の施設（病院）4か所で行い、週ごとのカンファレンスに院生全員が参加し情報共有と意見交換が密にできた。 また、施設別の担当教員にとっても実習進捗状況や各院生の学習状況を教員間で確認のうえ調整ができたと考える。 しかし、施設の分娩件数やケア体制の違いにより、期間中に待機時間が多く、目標事例数が達成できなかった院生があった。 今後は、期間中に目標事例数についても達成可能な市内の施設を実習病院として開拓していく必要がある。</li> <li>2) 基礎分野1年統合実習Ⅰでは、一施設に実習する院生の人数を当初の予定より増やし、遠隔地の実習病院を減らす調整を行った。しかし、遠隔地の実習施設担当の教員をサポートできるシステムの構築には至らなかった。今後は、実習中の教員の休日調整や院生指導サポートができるよう改善していきたい。</li> <li>3) 独立助産実習については、1年次の病院での実習を経ての助産院実習を行っているが、インターンシップの方法で高い学習効果が得られている。実習期間の半ばに設けている院生と教員によるカンファレンスでは健康状態や実習進捗状況の把握のほか院生間の情報共有の学習機会になっている。また、後半の実習調整の機会としても有効であった。になっている。 実習施設はすべて遠隔地であるが院生の食事や宿舎等の日常生活環境についても受け入れ側の配慮が行き届き良好である。 今後も教員（大学院側）と院長（助産院）との間で教育環境を調整していきたい。</li> </ol> </li> <li>2. 実習評価の検討             <p>昨年より基礎実習と統合実習に評価に導入した「ルーブリック評価」は、院生の自己評価と教員評価をもとに、院生と教員間で学習状況について話し合う機会を多くしている。実習中間での評価からの話し合いは、後半の課題を明確にした実習につながっている。</p> <p>活用する中で知識・技術・態度面の評価バランスについて検討がなされ、結果、評価表の一部改正を行った。さらに、評価項目が多いことやより適切な文言表記が必要ななどの課題も出てきている。院生が適切な自己評価を行え、主体的に学習に臨めるツールとなるよう、さらに評価表の改善に努めたい。</p> </li> </ol>
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新規実習病院の開拓</li> <li>2. 実習担当教員のサポートシステムの構築</li> <li>3. 実習評価表の改善</li> </ol>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>実習施設数、分娩件数の確保に努力し、実習評価では「ルーブリック評価」を導入し、院生の自己評価を可能にして教員との話し合いの機会を構築したことは評価できる。遠隔地の実習もあることから、院生の指導および担当する教員の休日の確保等、加えて実習施設の確保についてはさらに検討が望まれる。</p>

## II. 院生の受け入れ

担当：助産研究科 入試・広報委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 限られたマンパワー・予算の中で、「アドミッション・ポリシーに合った志願者」が増加するよう、広報効果の最大化を図る。</li> <li>2. 入試ミス防止に十分配慮するとともに、円滑で遺漏のない入学試験の実施・運営に万全を期する。</li> </ol>
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 活動目標を達成するために行った活動と評価は以下のとおり。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①助産研究科パンフレットについて、取材時期の早期化により、当初目標としていた6月中旬に完成した。</li> <li>②6月のミニオープンキャンパス参加者は12名（昨年度13名）と、例年並みであった。8月のオープンキャンパス参加者数は、26名（昨年度20名）と増加した。院生による「模擬母親学級」の実施に加え、新たに「施設見学」において助産演習の体験を行い、好評を得た。</li> <li>③web サイトページについては、訪問しやすくなる動線づくり（SEO、リスティング広告）は実施したものの、助産研究科 web サイトページの内容の充実は図れなかった。</li> <li>④本学看護学科学生に対する学内説明会を実施し、従来の3、4年次生に加え、1、2年次生にも実施した。</li> <li>⑤助産研究科ちらし・ポスター・パンフレット・学生募集要項を病院・看護大学等に一斉送付した。また、早期からの広報活動も含め、新設の看護系大学にも送付した。</li> <li>⑥「オープンキャンパスの開催」や「入学試験の出願開始」を告知するため、資料請求者等に対しメールマガジンを配信した（年5回）。</li> </ol> </li> <li>2. 推薦入学試験、前期試験（一般入学試験、社会人入学試験）、後期試験（一般入学試験、社会人入学試験）を実施した。試験前に入試・広報委員長による試験問題の最終チェックを行うなど入念に準備を進め、全体として円滑に入試業務を遂行した。</li> </ol>
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産研究科パンフレットについて、6月中旬の完成を目指して制作し、より訴求性の高いものにする。</li> <li>2. 助産研究科の web サイトページの内容を充実させる。その際、他の大学院との違い等訴求内容が伝わりやすいよう内容を工夫する。</li> <li>3. 魅力あるオープンキャンパスの動員および出願者を増加させるため、道内看護系大学への訪問や、病院に対して助産師資格の取得を目指すスタッフへの告知依頼、オープンキャンパスの魅力あるコンテンツの検討（簡単な助産の体験学習等）を行う。</li> <li>4. 助産研究科広報資料について送付内容・送付時期・送付先・回数を充実させる。その際、看護系専門学校卒者の出願が可能であることも告知する。また、「看護系予備校（助産師養成校への進学希望者対象）」にも積極的に案内する。</li> <li>5. 天使大学 看護学科学生に対する広報活動を強化する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①看護学科学生に向けた、授業公開や院生との交流会の実施を検討する。</li> <li>②助産研究科パンフレット・ちらしを看護学科全学生に配布する。</li> <li>③アッセンブリー・アワー等で「誕生」や「命」等のテーマで助産研究科教員が講話を行うことを学部働きかける。</li> <li>④説明会では対象学年によって説明内容を変更する。</li> </ol> </li> <li>6. 入試ミス防止に十分配慮するとともに、円滑で遺漏のない入学試験の実施・運営に万全を期する。また、よりアドミッション・ポリシーに合う院生を選抜できるよう、合否判定基準を見直す。</li> </ol>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>多様な広報活動を展開したことを評価する。入学生の減少という現実に対し、本学の専門職助産研究科と他大学1年コースとの違い、差別化をより明確にして訴えることが必要で、この点の強化に期待する。</p>

### Ⅲ. 教員組織

担 当：助産研究科教務委員会（教務）

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員組織の強化（継続）</li> <li>2. 院生の学習支援の強化</li> </ol>
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 昨年度末で教授 1 名、年度途中で講師 1 名、助教 1 名の退職があり、授業においても実習においても厳しい管理運営となった。教授陣の年齢が高くなっていることから、今後、助産師としての十分なキャリアを持ち、助産師教育を志向する若手教員の採用が急務である。 また、実習指導教員を確保することが難しくなっている。実習期間が長期にわたる本研究科においては優秀な実習指導教員の安定的確保は重要である。次年度にむけて、実習指導教員には、従前より早い時期に依頼交渉を行いたい。</li> <li>2. メンター教員、実習担当教員、研究指導教員など様々な立場で教員は院生と個別的な関わりを持っているが、直接担当していない院生については教員間で十分な情報共有が図られていないことがあった。結果、院生へのフォローの遅れ、担当教員へのサポート不足が反省された。 今後は、学習指導上の問題解決にあたっては、教員全員が早期に、一体となって取り組めるよう教員間のコミュニケーション機会を適宜設けるなど組織力を高める仕組みを考えていきたい。</li> </ol>
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員組織の強化（継続）</li> <li>2. 院生の学習支援の強化（継続）</li> </ol>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員組織の強化について、2016 年度は准教授 1 名と講師 1 名が退職し、特任教授 1 名と助教 2 名を採用した。実習を重視する助産研究科にとっては実習を指導する教員の態勢が整ったと評価できる。（学長）</li> <li>2. 多様な学生が入学する最近の状況から、学習困難者への支援態勢をさらに整える必要がある。（学長）</li> <li>3. 特に長期に亘り地方で行われる統合実習のカリキュラムについて見直し・検討が必要である。（学長）</li> <li>4. 教員の不足が続いている現状を踏まえ、教育の質保証のためにも研究環境の充実等、離職の予防対策を行い、また若手教育者・研究者の育成に期待する。（自己点検委員会）</li> </ol>



IV. 研究活動・研究環境

担 当：学術振興委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究意欲の発揚と共同研究推進のために研究報告会の定例開催を行う。</li> <li>2. 紀要第 17 巻(第 1 号・第 2 号)を発刊する。</li> <li>3. 競争的外部資金導入のための情報収集と研究環境整備について検討する。</li> <li>4. よろず相談を継続し、若手研究者育成のための具体的方策を検討する。</li> <li>5. 本学の教育研究に関する講演会を企画・実施する。</li> <li>6. 2015 年度の委員長提言について、今後も引き続き要請を行う。</li> </ol>
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究報告会は 2017 年 3 月 17 日(金)に特別研究費による報告 3 件を行った。</li> <li>2. 紀要は、第 17 巻の第 1 号及び第 2 号を発刊した。第 17 巻第 2 号には、助産研究科院生と教員の共著による 1 編の論文の投稿を行った。しかし、投稿者が減少していることについては、引き続き対応策を検討する。</li> <li>3. 今年度の科研費採択数は継続の 4 件に留まった。申請件数は計 14 件。 科研費獲得のための講習会を 2016 年 8 月 22 日(月)に開催し、科研費採択審査委員経験者である高島郁夫教授にアドバイスをお願いした。参加者は 22 名。</li> <li>4. 若手研究者の多様な質問に応じることができるよう相談体制を継続した。</li> <li>5. 佛教大学の松岡 千代教授を講師として招聘し「災害時における生活支援—中長期的支援に求められる視点—」と題する講演会を 2017 年 2 月 28 日(火)14 時から 6101 講義室で行った。参加者は 28 名であった。大学院生の関心が高く、助産研究科の院生 3 名の出席があった。</li> <li>6. 2015 年度委員長提言について             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 組織の見直し（教員定数を早急に充足させる。助手・助教の定員を増やす。さらに研究指導者と若手研究者の一対一の研究指導体制を構築し、博士号を取らせる。）について、教員数不足の現状を共通理解することはできたが、危機的状況の改善策の提案には至らなかった。2016 年度博士号取得者は 1 名に止まった。</li> <li>2) 研究費の増設（若手研究者向けの特別研究費枠を設ける）について、2016 年度の特別研究費決定が遅れ、応募総額が予定額に達しなかった現状から、実効性ある方策を次年度以降に再検討する必要がある。</li> </ol> </li> <li>7. その他、助産研究科から 5 名の院生の研究について倫理申請までの研究プロセスを支援し、1 人は紀要論文への投稿、他、2 名は論文執筆中、2 名は研究続行中である。</li> </ol>
<p>次年度への課題</p>	<p>活動目標 6 項目については、引き続き継続して実施し、かつ要請していく。特に 6 については、教員定数充足等や研究指導体制の充実を要請していく必要がある。また、若手の教員が積極的に研究費取得を目指すような環境を整えていくことも必要である。紀要は、第 18 巻第 1 号、第 2 号を発行する予定であり、助産研究科としても引き続き紀要等への論文投稿を支援していく必要がある。</p>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>昨（2015）年度の課題を踏まえて、今年度の活動目標が策定され、さらに各目標に対して評価が行われ、次（2017）年度の課題へとつながっている。助産研究科における、自己点検評価の P D C A サイクルが適切に実施されており評価できる。</p>

IV. 研究活動・研究環境

担 当：研究倫理委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 迅速な倫理審査の実施</li> <li>2. 新しい委員会規程の下での委員会業務の遂行</li> <li>3. 研究倫理に関する研修活動と情報提供</li> </ol>
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 昨年度から導入している「天使大学における倫理審査のためのチェックリスト」について内容を一部変更した改訂版を作成し、年度始めから利用した。主な改正点としては、申請前に研究倫理に関する何らかの研修を受けることを義務付けたことにもない、その有無を記載する欄を新たに設けた。また、現行の国の倫理指針「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に合わせて迅速審査手続きも導入したが、当面は研究計画の軽微な変更等に限り迅速審査の対象とし、それ以外のものはこれまで同様に委員会の中で審査することとなった。          なお、今年度は全体で 33 件の研究倫理審査申請があった。各申請に対しては、事務局を担当している財務室スタッフおよび委員長が申請書類等を確認しているが、申請者本人の事前チェックが不十分なものも多く、昨年度同様その対応に相当の時間を要した。よって次年度は、チェックリストの適切な使い方についてさらに周知徹底させる必要があると思われる。</li> <li>2. 現行の倫理指針「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に合わせた委員会規程の改正を昨年度末に実施し、委員会構成員の変更（外部委員の登用）および迅速審査手続きの導入、委員会審議事項への利益相反の明記などを盛り込んだ新しい委員会規程の下で業務を遂行した。          なお、昨年度までは本委員会に予算は付かなかったが、外部委員の導入に伴いその人件費が発生し、また年一回の研修会の機会確保が現行の倫理指針で定められているため、そのための講師招聘のための経費等を今年度から予算とし計上している。</li> <li>3. 従来同様、年度始めの早い時期に、本学での研究倫理審査申請の手続き等の研修会を実施し、研修会参加者には研修を受けた旨の修了書を発行した。</li> <li>4. 助産研究科では、助産教育分野 1 年生 2 名と、助産基礎分野 2 年生と教員の共同研究の計 3 題が、研究倫理審査を申請、受託された。</li> </ol>
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 従来通りの迅速な研究倫理審査を実施すること。</li> <li>2. 国の倫理指針に基づきながら委員会業務を遂行すること。研究倫理に関する研修会の実施や、研究倫理に関する幅広い情報提供の実施。</li> <li>3. 学術振興委員会等、他の委員会とも連携しながら、関係する情報の共有を図ること。</li> <li>4. 助産研究科では、助産基礎分野 2 年生の特別統合課題研究の研究倫理申請を検討する。</li> </ol>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>昨（2015）年度の課題を踏まえて、今年度の活動目標が策定され、さらに各目標に対して評価が行われ、次（2017）年度の課題へとつながっている。助産研究科における、自己点検評価の P D C A サイクルが適切に実施されており評価できる。</p>

V. FD活動等

担 当：FD委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 「教育の質保証」の向上を図るため研修会活動等を行う。                  1) FD研修会の開催：カリキュラムを中心としたFD研修会を開催する。                  2) 学生授業評価アンケートの実施                  3) 委員の研修会参加</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. FD研修会の開催                  障害者差別解消法が施行（平成28年4月1日）されたことに伴い、その概要と合理的配慮を学ぶことを目的として、NPO法人えじそんくらぶ代表の高山恵子氏を招聘し、「学生の能力を最大限引き出す支援-合理的配慮の視点から-」と題して第1回の研修会を2016年10月3日（月）に開催し、47名の教職員が参加した。                  発達障害の種類やその特徴と合理的配慮の方法について、講師自身の体験も交えて講演頂き、アンケート結果からも満足度の高い研修会が開催できた。                  第2回は、昨年度に引き続き大阪大学全学教育推進機構准教授の佐藤浩章先生を招聘し、「3つのポリシー策定の意義と一貫性構築手法」と題して2016年12月27日（火）に開催した。午前中は全教員対象の講義で51名が参加し、午後は学科・科の代表者18名でカリキュラムマップ・ツリー作成ワークショップを実施した。                  2017年4月には3つのポリシーの公表が義務化されるため、3ポリシー策定の意義と見直し、さらにマップ・ツリー作成法等の意義深い研修機会を提供できたと考える。</p> <p>2. 学生授業評価アンケートの実施                  昨年度に検討した新方式によるアンケート実施の初年度であった。集計表には、新たに科目責任者が記載する「改善の方策欄」を設け、次年度に向けての授業改善法とその内容を具体的に記載する形式とした。その実施度や効果測定等は次年度以降の課題となるが、科目責任者の授業改善への取り組みが可視化された点で、一歩前進したと考える。                  なお、非常勤講師への説明を丁寧に行うために、改善の方策が記入された集計表の非常勤講師への配付は、科目責任者（科目責任者が非常勤講師でオムニバスの場合は、学内の科目調整者）を介することに変更した。また、看護学科臨地実習科目の回収率の改善が課題として共有された。調査から公表までの一連の業務プロセスとあわせて検討を重ねる必要がある。</p> <p>3. 委員の研修会参加                  近年は市内や近郊、特に北海道大学において無料で受講できる研修会が多く開催されている。そこで今年度は、本学も加盟している北海道地区FD・SD推進協議会を通じて配信される研修会の案内を学内LAN掲示板に掲載し、FD委員以外の教員も研修に参加できるよう情報提供を行った。</p> <p>4. 助産研究科教員4名が、実習評価表の改善を図るため、高等教育推進機構主催の「ルーブリック評価」研修会に出席した。</p> <p>5. 助産研究科臨床指導者FD研修会の開催                  2016年3月17日（金）10時～12時                  テーマ：教育機関から始める看護の質と安全の教育                  話題提供：助産研究科教授 津田                  参加者：7名</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 2016年度第1回FD研修会のアドバンス版として、学修に困難のある学生への対応を事例に基づくシミュレーション演習で学ぶ研修会を企画・実施する。                  2. 学生授業評価アンケートの円滑な実施を図る。                  3. 授業改善の取り組みの一つとして、教員間の授業参観を試行する。                  4. 委員を外部研修会に派遣し、新規事業に関する情報収集を行う。</p>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>カリキュラムの充実と相互理解を深めるためのFD研修会の実施は評価できる。教育の質保証に貢献できる研修会企画や外部研修会への派遣、授業改善に向けた取り組みに期待する。</p>

## VI. 社会貢献

担 当：地域連携等委員会

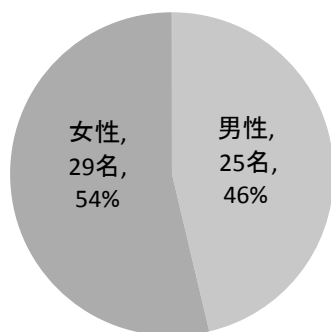
<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2016 年度天使大学・北海道薬科大学公開講座の実施・運営及び2017 年度公開講座の企画・検討</li> <li>2. 東区役所との連携事業及び5 者（東区役所、本学、札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部、専門学校北海道体育大学校、札幌保健医療大学）連携事業の推進</li> <li>3. 大学間（北海道薬科大学等）の連携事業等の展開</li> <li>4. 地域・他大学との連携事業の実態把握</li> </ol>
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 北海道薬科大学（以下、「薬科大」という）と連携した公開講座は今年度で6 回目である。薬科大と連携することにより、医療、薬学、看護の分野から生活に役立つ情報をわかりやすく解説する講座を実施することが出来た。受講申込者は 2015 年度と比較すると 0.5%減少したが、アンケート結果（別紙1）より受講者からの評価は高く、地域住民への有意義な講座を実施することができた。今後も、地域住民にとって有益な企画を立案していく。</li> <li>2. 東区役所と連携し地域住民対象に7 件の事業を行った。各事業とも本学教員と学生ボランティアが協力し、本学の質的資源が地域住民に還元されたことは評価できる。今後もこれらの事業に関して継続できるようサポートする。          また、東区5 者連携事業として、「ひがしく健康・スポーツまつり」で[天使大の健康塾]の企画・運営を行った。地域住民参加型の企画内容で、本学は学生ボランティア協力のもと、食事バランスチェック・血圧測定・血管年齢測定・骨密度測定を行った。          説明が解りやすく参考になったと好評で、今後も委員会として充実した企画・運営を行っていく。</li> <li>3. 大学間連携として、薬科大が主体で実施している「夕張地域医療体験」への学生参加者の募集を行い、事前準備・事後報告を行った。</li> <li>4. 本学と地域・他大学との連携事業の実態を把握し、次年度以降も継続する。</li> </ol>
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公開講座で薬科大と連携することの利点を生かし、企画、運営について検討する。</li> <li>2. 5 者連携事業である「ひがしく健康・スポーツまつり」の「天使大の健康塾」について学生の参加を募り、充実した企画にする。</li> <li>3. 薬科大との連携事業では、夕張地域医療体験への学生参加者の支援、連携内容について薬科大から提案されたことについて検討する。また、他大学との連携等についても検討する。</li> <li>4. 本学教職員が地域・他大学と連携する事業等を掌握し、地域社会へ貢献している現状を整理する。</li> </ol>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>薬科大と連携した公開講座に一定の受講者の参加、継続して高い評価を得ていることは評価できる。地域や他大学との連携の更なる推進に向けて、活動を進めていくこと。</p>

2016年度 天使大学・北海道薬科大学連携公開講座  
 ■講座全体等に関するアンケート

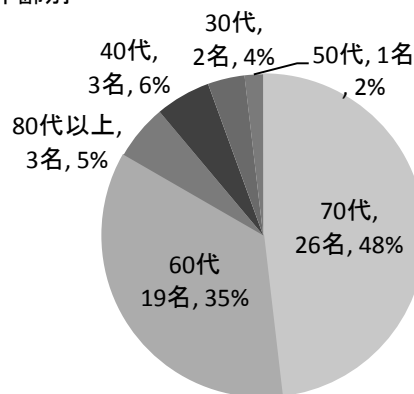
回答人数 54

1. 次の事項について、差し障りのない範囲でお答え願います。

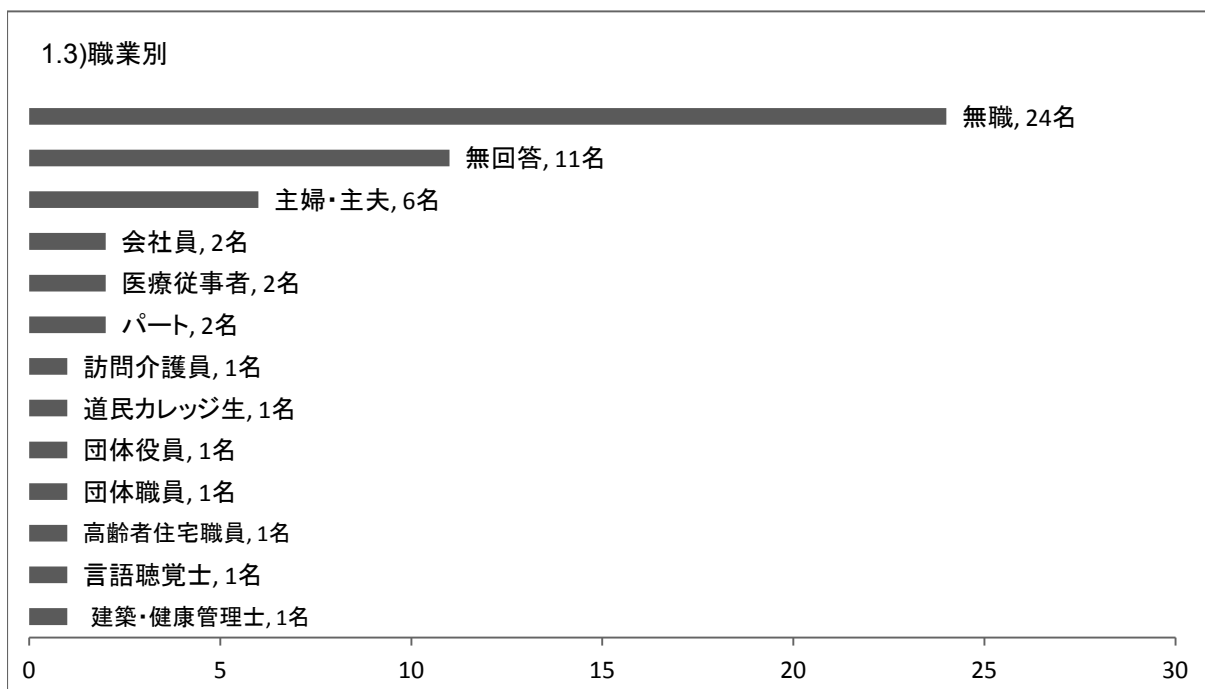
1.1) 男女別



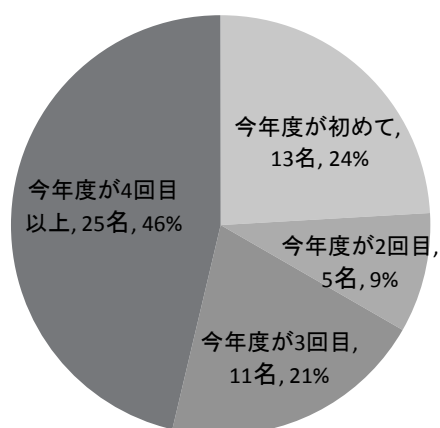
1.2) 年齢別



1.3) 職業別



2. これまでの参加回数



2016年度 天使大学・北海道薬科大学連携公開講座  
 ■講座全体等に関するアンケート

3. 何で知りましたか。(複数回答)

①	チラシ(北海道新聞折込み)	7人	11.3%
②	掲示ポスター	3人	4.8%
③	天使大学からの郵便物(ダイレクトメール)	34人	54.8%
④	新聞掲載	3人	4.8%
⑤	広報誌(道民カレッジ等)	9人	14.5%
⑥	ホームページ	0人	0.0%
⑦	その他	6人	9.7%
	無回答	0人	0.0%
合計		62人	100.0%

※その他内訳… 閲覧板(2) 知人・友人より(2) 区民センター、紀伊国屋書店など(2) 区役所のパンフレット(2)

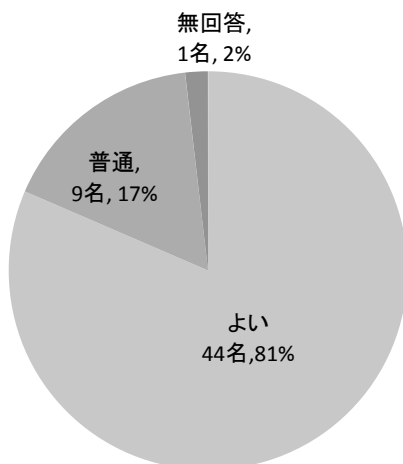
4. ご参加の動機をお聞かせください。(複数回答)

①	テーマに興味があったので	43人	38.4%
②	講師陣に魅力を感じて	1人	0.9%
③	2大学連携の公開講座だから	15人	13.4%
④	通いやすい会場だから	22人	19.6%
⑤	参加しやすい開講時間帯であるため	27人	24.1%
⑥	その他	4人	3.6%
	無回答	0人	0.0%
合計		112人	100.0%

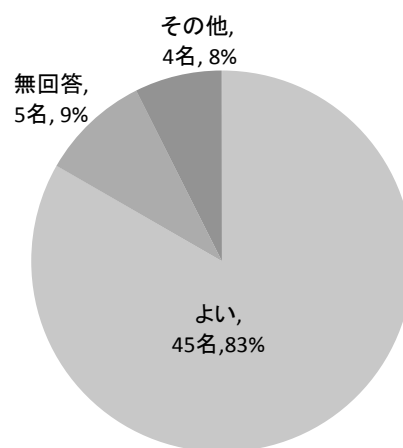
※その他内訳… 104歳の母を介護しています。最近は食事の量が少なく、いつも寝てばかり。その上、昼夜逆転で寝不足。参考になることがあるのではと思い参加した。  
 働いているので日中でない方が参加しやすい。  
 道民カレッジ連携講座だから  
 記入なし

5. 今年度の公開講座について感想をお聞かせください。

5.1)全体テーマについて



5.2)回数について



※その他内訳… 4回が良い(2) 3回が良い(1) 6回が良い(1)

## VI. 社会貢献

担 当： 助産研究科教務委員会（教務）

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係専門職団体や学会、研修会等による助産師専門職の資質向上へ貢献する。</li> <li>2. 女性や母子の健康にかかわる行政等の事業に協力・連携する。</li> </ol>
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係専門職団体や学会、研修会等による助産師専門職の資質向上へ貢献する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 一般社団法人北海道助産師会の理事（会長、副会長）、委員として会活動の企画・運営に参画した。（教授 2 名、助教 1 名）</li> <li>2) 北海道思春期研究会の幹事として活動の企画・運営に参画した。（教授 2 名）</li> <li>3) 他大学等教育機関に講師派遣を行った。                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害看護（教授 1 名）</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>2. 女性や母子の健康と幸福のために、行政等の事業に協力・連携する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本学ヘルスケア開発実践プロジェクト「子育てサロン」の企画・運営に参画し、2 回実施した。（教授 1 名、院生ボランティア 10 名）</li> <li>2) 講義依頼を受けた中学校においてピア（院生）による性教育授業（思春期教育）を 3 回実施した。（院生 9 名、教授 1 名）</li> <li>3) 実習病院 5 施設に通院中の妊婦を対象に、院生による両親学級（「出産準備教育」）を実施した。（院生 16 名、教授 1 名）</li> </ol> </li> </ol>
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の女性や母子の健康推進や子育て支援に関する事業に協力する。</li> <li>2. 助産ケアおよび看護ケアの質向上と安全への事業に協力する。</li> </ol>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>学外における助産師専門職の資質向上に向けた取り組みについて評価する。今後も更なる活動を期待する。</p>



VII. 国際交流

担 当： 助産研究科教務委員会（教務）

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際助産学実習の場所・施設の検討。</li> <li>2. ICM（カナダ・トロント）の院生参加に向けて、実習期間の調整。</li> </ol>
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今年度も、国際助産学を選択した院生4名がマダガスカルのアベマリア産院での実習を行った。現地滞在17日間の日程であったが、航路の変更で現地への所要時間が増した。現地では、実習受け入れ側の修道会と実習指導教員に空港から実習地のアンチラベまでの送迎、滞在中の宿泊施設は実習施設敷地内の修道院とし安全を図った。さらに、マダガスカルやアベマリア産院の状況に通じている本大学院修了生の実習指導教員1名を実習期間中配置した。院生中に体調を崩し、また生活態度面に多少の問題を生じた者が出たが、実習目標は達成できた。帰国後、実習生間での話し合いと、レポートで課題の整理を行った。また現地の責任者の帰国を受けて、実習指導教員と国際助産学担当の教員2名で話し合いの機会をもち、次年度への対策について確認した。</li> <li>2. ICM（カナダ・トロント）の院生参加に向けて、院生への情報提供を行ったが、国際助産学実習（マダガスカル）を予定している基礎分野2年生を含めて、出席希望者はいなかった。新入生は、会期が基礎実習期間となることから、今回の参加は見送った。このため、本学からは近藤特任教授（元ICMアジア太平洋地区理事）、山本教授（現日本助産師会副会長）の2名が参加予定である。</li> <li>3. 11月末～12月上旬の6日間、近藤特任教授、園生研究科長と全助教会長の井村氏（日赤看護大学教授）の3名で、USAにおける助産師教育等についての情報収集に、ボストン・カレッジ（マサチューセッツ）と、ペンシルバニア大学（フィラデルフィア）を訪問した。Boston College Connell School of Nursing では、看護の責任者から同大学の看護教育について情報収集をした。University of Pennsylvania では、Nurse-Midwifery Program について、Director の Dr. W. McCool 他と情報交換を行い、DNPでの助産師育成を志向していることが分かった。また両大学共に、学生の臨床でのコミュニケーションやケア能力向上を目指してリアリティのあるラボ（看護実習施設）の充実が図られていた。</li> </ol>
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際助産学実習に向けて、院生の準備・オリエンテーションの更なる充実を図る。</li> <li>2. マダガスカル現地の助産師のケア能力向上に向けた研修を企画する。</li> <li>3. 将来に向けた国際助産学実習の場所・施設の検討。</li> </ol>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>「国際助産学実習」への参加は、例年継続されており、技術だけでなく、国際的な視野を育成するためにも大きな意義を持つと考えられる。この活動は、本研究科の特徴でもあることから、次年度も円滑に進められることを期待する。</p>



VIII. 学生生活・就職支援

担 当：教務委員会（学生生活・就職）

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生生活全般への支援</li> <li>2. 学生の健康支援</li> <li>3. 学生生活実態調査実施</li> <li>4. 学生課外活動への支援</li> <li>5. 就職支援</li> </ol>
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生生活全般への支援             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) メンターシップによる学修・生活支援の充実 入学時から学生一人ひとりにメンター（よき助言者）となる専任教員をおき、学習進捗を確認し、学生の専門職者としての自己課題の発見および成長に必要な指示、方向付け、フィードバック等の支援を行った。また、学生生活全般（健康状況含む）についての相談役となり、支援を行った。特に実習上問題があると思われる学生には、実習前・後に個人面接を実施した。</li> <li>2) 学生の経済的支援 奨学金は、天使大学奨学金、天使大学同窓会、日本学生支援機構奨学金、日本助産師会奨学金、北海道看護職員修学資金等を紹介し経済的支援を行った。また、道内の病院（厚生連）の奨学金、地方自治体や団体等の奨学事業も積極的に紹介した。</li> <li>3) 学生生活ガイドブックの充実 学生生活ガイドブックを発行し、全学生・教職員へ年度初めに配布した。学生生活全般について理解できるよう学生生活ガイドブックの内容を充実努めた。</li> <li>4) 事件事故の予防 実習で夜遅く帰宅することが多いため、「防犯ブザー」を全学生に配布した。また、「護身術」講習を実施し、事件・事故に遭わないよう啓発活動を行った。</li> <li>5) メディアリテラシー講座の開催 株式会社コンクレティオに依頼し、急増するSNSのトラブルと使用上の注意点等について喚起した。 災害傷害保険（日本看護学校協議会共済会の共済制度「WILL」）への加入を義務づけ、実習中等に傷害・賠償・感染事故が発生した場合の対応策をとった。</li> </ol> </li> <li>2. 学生の健康支援             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保健相談室の現状 学生の定期健康診断はセット検診（X線撮影、身体計測、聴力、聴打診、血液採取等）を実施した。また、季節性のインフルエンザ感染予防対策としてマタニティサイクル助産ケア統合Ⅰ実習の開始前に予防接種を奨励し、全員が接種した。</li> <li>2) 学生相談室の現状 学生相談室の相談員を2名体制とし週5日の開室日を設け、月曜日から金曜日までいつでも相談を受けられる体制を継続した。</li> </ol> </li> <li>3. 学生生活実態調査「天使大学大学院生学生生活についての調査」の実施 教育分野・基礎分野2年次生に修了前に学生生活実態調査を実施した。</li> <li>4. 学生課外活動への支援 1年次生が合唱コンクールに参加した。</li> <li>5. 就職支援 1年次生対象に接遇ガイダンス、2年次生対象に就職ガイダンスを実施した。就職活動ガイドブックを配布した。就職相談室の活用及び周知を強化した。</li> </ol>
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生生活全般の支援については、メンターシップの強化を始め、「天使大学大学院生学生生活についての調査」結果を分析し、よりよい学生生活支援を実施するためさらに検討していく。特に遠隔地実習での学習・生活支援の強化も図っていく。</li> <li>2. 経済的支援として、各種奨学金紹介のより一層の充実を図るとともに、給付型の奨学金の掘り出しと紹介に努める。</li> <li>3. 健康支援については、今後も学生相談室、保健相談室の相談員と連携し、更なる充実を目指す。</li> <li>4. 就職支援については、学生のニーズに応じた支援体制の強化が課題である。</li> <li>5. 社会問題となっているSNSのトラブルについて、注意喚起を継続していく。</li> </ol>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>メンターシップを活用した学生支援は、学習・経済事情、生活等多岐にわたり例年通り十分に実施され、評価できる。SNSのトラブルについては、今後発生時や防止の体制作りを強化されることを期待する。</p>

VIII. 学生生活

担 当：宗務委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カトリックの精神に基づく宗教的行事を企画運営する。</li> <li>2. 学生にキリスト教精神を理解してもらう。</li> <li>3. 教職員に建学の精神を理解してもらう。</li> <li>4. 教育理念に基づく宗教的環境を整備する。</li> <li>4. カトリックの精神に基づく研修会へ参加する。</li> <li>5. カトリックセンターとの連携を図る。</li> <li>6. アッセンブリー・アワーの日程を調整する。</li> </ol>
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カトリックの精神に基づく宗教的行事を企画運営する。 宗務関係行事の運営は、特別なミサである出会いと親睦のゼミ、イースターの集い、死者追悼のミサ、創立記念日のミサ、クリスマスミサ、新年のミサ、退職する教職員へ感謝のミサ、卒業・修了感謝のミサや毎週のミサ、儀式等（マリア様の戴冠式、クリスマスツリー点灯式、クリスマスキャロルの放送、灰の儀式）、実習前のミサや国家試験前のお祈り等を通し、学生・教員にカトリックの精神の理解を深めるようにした。</li> <li>2. 学生にキリスト教精神を理解してもらう。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 入学時と修了前に修養会を企画しミサやお祈りをとおして、キリスト教についての理解を促した。</li> <li>2) 4月に新入生に向け、宗務委員長より、「見学の精神」とキリスト教との関連についての講話を頂いた。</li> <li>3) 北海道薬科大学連携公開講座において、宗務委員長の「キリスト教の愛とは何か」についての講話があるため参加を促した。</li> <li>4) 「カトリック医療関連学生セミナー札幌」参加への広報をした。</li> </ol> </li> <li>3. 教職員修養会の実施 カトリックセンターが企画し、宗務委員会が協力をして実施した。今年度は12月8日に行った。出席者のアンケートでは、評価は「良い」が多かったが、実施する日程や時間への意見も聞かれた。 助産研究科は、実習期間中であったため出席可能な教員が出席した。</li> <li>4. アッセンブリー・アワーの日程を調整する。 講義期間中にアッセンブリー・アワーを設けると共にプログラムについて調整を行った。</li> </ol>
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎週のミサの参加人数が増加するための対策を考える。</li> <li>2. 修養会の内容の充実についての検討。</li> <li>3. 学生がキリスト教についての理解を深めるためのアッセンブリー・アワー内容の工夫と企画。</li> <li>4. 教職員修養会の日時の検討。</li> <li>5. 「カトリック医療関連学生セミナー」が東京で開催されるので、学生の参加を促す。</li> </ol>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>学園創立70周年にあたる本年度は、建学の精神についての理解を深めてもらう絶好の機会である。このため、宗務委員会は教職員及び学生に対して各種宗教行事への参加を促すとともに、カトリックセンターと連携して積極的に建学の精神について情報発信することを期待する。</p>

VIII. 学生生活

担 当：キャンパス・ハラスメント対策委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>キャンパスにおける人権意識を成熟させ、大学生活環境を快適なものとするため、ハラスメント問題について啓発・点検・支援・問題解決を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新入学生を対象としたハラスメントに対する理解を深めるための講演会を開催する。</li> <li>2. 新入生ガイダンス時にガイドライン配付を行う。</li> <li>3. 教職員を対象とした研修会を実施する。</li> <li>4. 啓発 DVD 上映会の開催を行う。</li> <li>5. 防止のためのポスター作成等により全学的に啓発活動を行う。</li> </ol>
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. キャンパス・ハラスメントに関する講演会を開催した。 6月14日13:30~14:30「ガイドラインを用いてキャンパス・ハラスメントを考える」荒井春生（天使大学キャンパス・ハラスメント対策委員会委員長）。対象は新入生、教職員。 助産研究科は、上記日程は、実習中であったため、事前に助産女性学等の講義を通してハラスメントについて周知を促した。</li> <li>2. 新入生へのハラスメントについてのガイドライン・パンフレットの配付</li> <li>3. 教職員を対象とした研修会については実施できなかった。</li> <li>4. 開催時期の調整がつかず、実施できなかった。</li> <li>5. 啓発活動のためにポスターを前年度に引き続き、学内に掲示した。 後期も、パンフレット等を配布し、ハラスメント防止の啓発を行った。</li> </ol>
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新入生へのキャンパス・ハラスメントに関する正しい知識や認識を深めるため、講演会などの全員参加に向けて働きかけを行う。助産研究科では、ハラスメントに関連した講義が多く取り入れられているが、入学後早期にハラスメントについての理解とその対応について学生に周知できるよう、時間を設けていくことが必要である。</li> <li>2. 委員の学外研修会参加など、よりの確に対応するスキルを学ぶ機会が必要である。</li> </ol>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>新入生を対象に学生の理解を深める講演会を実施し、学生・教職員が人権意識を成熟するように講演会等を企画運営していることは評価できる。今年度実施できなかった教職員を対象とした研修会の開催の実現および委員のスキルを向上させる機会が必要である。</p>

## IX. 図書館

担 当：図書情報委員会

本年度の活動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 機関リポジトリの運用：収録コンテンツの整備計画策定と実施</li> <li>2. アクティブ・ラーニングを支援する文献検索ガイダンスの実施</li> <li>3. 図書館ホームページの維持管理と Facebook 機能の活用</li> <li>4. 洋雑誌の利用頻度調査結果に基づく見直しと電子ジャーナルへの切り替え</li> <li>5. 登録図書の計画的除籍及び廃棄(譲渡)と移管図書の再活用</li> <li>6. 将来構想等への新棟建築素案の提示(情報処理室を含む)</li> <li>7. 防災対策と必要備品等の準備(情報処理室を含む)</li> <li>8. 北海道地区私立大学図書館協議会幹事館としての活動(業務研究会開催など)</li> <li>9. 利用者の要望に基づくサービス改善の実施</li> </ol>
活動内容の評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎年教員の退職が多く、収集計画が立てにくい状況にあるため、今後の進め方について、改めて協議することとしたい。</li> <li>2. 文献検索ガイダンスについては、講義の一助として実施するのはもちろん、個人の要望にも応じ、学生の自発的学習を支えるという点で評価されている。</li> <li>3. 図書館ホームページや Facebook については、一定程度利用促進が図られた。</li> <li>4. 洋雑誌についてはここ数年、各学科・科・研究科の委員の下で利用頻度に基づく見直しを行い、厳選された感がある。また、2016 年度の後期からメディカルオンラインを導入し、より利用者の要望に応えられる環境が整った。</li> <li>5. 除籍及び移管図書の再活用は順調に行われ、今後も続けたいと考えている。</li> <li>6. 学園創立 70 周年事業については、法人と教職員、後援会や同窓会が協力して実施することが決定している。今後出される将来構想や中・長期計画の提示を受けて新しい図書館及び情報処理室の素案を準備したいと考えている。</li> <li>7. 避難訓練が今年度も実施された。防災意識が高まる中、老朽化した施設等への対策が必要と思われる。</li> <li>8. 北海道地区私立大学図書館協議会の第 2 回業務研究会を本学で開催した。常磐大学の寺島哲平氏を講師にお迎えし、図書館ガイダンスをゲーム化した Libardry についてご紹介を頂いた。道内大学から 35 名の方が参加された。</li> <li>9. 新棟建設が叶うまではサービス面で補うこととし、要望のあった①貸出冊数の増冊、②卒業生への貸出、③パソコン用コンセントの増設、④ペットボトル等の館内持込みなどを実施した。 これに伴い、図書館利用規程案を作成し、委員会の了承を得て、教育研究評議会に上程することが決まった。</li> <li>10. 助産研究科院生の遠隔地での長期実習に際し、図書の長期貸出の便宜を図った。</li> <li>11. 助産研究科図書購入に際し、院生からの要望を取り入れた。</li> <li>12. 助産研究科院生学習室の図書の点検・整理を行った。</li> </ol>
次年度への課題	<p>いくつか達成された課題もあるが、次年度以降も継続して実施すべき点が残されているため、次年度も同じ活動目標を掲げて、図書館と情報処理室が連携して対応していきたいと考えている。</p>
自己点検 評価委員会 からの評価	<p>アクティブ・ラーニングの支援やメディカルオンラインの導入、貸出の対応等は、図書館機能の充実となり、またニーズに応じたサービスの改善により、利用しやすい図書館となっている。老朽化した施設等への対策として、防災計画の立案および新棟建設の早期実現は、安全な環境整備に向けて重要な課題と考える。</p>

X. 情報処理システム

担 当： 図書情報委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サーバシステム、学内 LAN、無線 LAN 環境、図書館貸出パソコンの整備・維持管理</li> <li>2. 情報処理室授業支援システム、学内 LAN 掲示板の更新と利用促進</li> <li>3. 遠隔地実習や講義、講習会等の実施を支援する Live On システムの活用</li> <li>4. 情報セキュリティに関する情報収集と対策(規程整備など)</li> <li>5. 事務局内のシステム導入に伴うサーバ、無線 LAN 等の整備・維持管理</li> </ol>
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サーバシステム、学内 LAN、無線 LAN 環境、図書館貸出パソコン等の整備・維持管理については、総務課併任の専任職員の協力を得ながら、専任職員及び嘱託職員各 1 名による体制が維持され、円滑に行われた。</li> <li>2. 情報処理室授業支援システムは問題なく利用された。また、情報処理室の土日開室を行い、学生の自習時間確保に努めた。実習中や試験前は多くの学生が利用したが、時期により利用者が少ない日もあった。学内 LAN 掲示板についてはワークフローや掲示板の利用促進の検討を行ったが実現に至らなかった。</li> <li>3. 遠隔地実習や講習会実施を支援するための Live On システムの活用については、助産研究科の教授会や遠隔地の委員を加えた会議など、付随的な課題にも活用された。講義では Live On を使って、演習の状況を情報処理室に中継し、それを見た学生が演習内容を評価する授業(カウンセリング演習)などが行われた。</li> <li>4. 公益財団法人私立大学情報教育協会主催の『大学情報セキュリティ研究講習会』に、専任職員 2 名が参加した。それを踏まえ、学内ネットワークサービス利用ガイドライン(学生用・教職員用)、情報システム管理運用及び利用に関する規程、SNS 利用の手引きなどを整備し、学内に周知した。また、新入生向けセキュリティ講座を実施した。</li> <li>5. T-NAVI 運用開始に伴う、運用支援、データ登録支援を行なった。また、出欠管理システム導入に伴う運用検討支援、無線 LAN 環境性能評価、性能分析資料作成などについて各課と連携し対応した。 2017 年度にむけては、無線 LAN 環境の利用促進を図ると共に、学務課と協力して出欠管理システムの安定稼働を目指す。また、2018 年度のサーバシステム、ネットワークシステムのリプレースに向けた検討も行っていく。</li> <li>6. 助産研究科教授会で、遠隔地の臨床専任教授の出席にライブオンを活用した。</li> <li>7. 助産研究科基礎実習、統合実習 I の円滑な実習のため PHS の貸出を行った。</li> <li>8. 助産研究科の遠隔地実習に際し、パソコンとプリンターの貸出を行った。</li> </ol>
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サーバシステム、学内 LAN、無線 LAN 環境、図書館貸出パソコンの整備・管理</li> <li>2. 学生の情報処理室、無線 LAN 環境利用促進</li> <li>3. 学内 LAN 掲示板の更新と利用促進</li> <li>4. 遠隔地実習や講義、講習会等の実施を支援する Live On システムの活用</li> <li>5. 情報セキュリティに関する情報収集と対策の継続</li> <li>6. サーバシステム、ネットワークシステムリプレースに向けた要件検討</li> </ol>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>無線 LAN 環境や情報処理室の開室時間の拡大、パソコンの貸出など利用しやすい環境に向けての取り組みがなされている。学内 LAN 掲示板の利用促進、Live On システムの多様な活用については全学的にも検討し、さらなる充実が望まれる。情報セキュリティに関する周知、教育、規程作成等の対策の検討が重要と考える。</p>

XI. 施設・設備

担 当：財務室

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 中長期計画に伴う新校舎建築計画の立案</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 校舎の整備について</p> <p>本学校舎の施設設備は老朽化が進んでおり、その整備更新は課題となっている。</p> <p>新校舎建築計画については、2016 年度中に策定することはできなかったが、学生等からの要望が強かった 3 号館のトイレ環境の改善を実施したところである。</p> <p>昨年夏には、校舎整備について検討するため、顧問建築士からの新校舎の建設に向けた提案を踏まえて、学園として、整備の方向性について検討したところである。</p> <p>また、昨年 10 月には将来構想委員会を開催し、その中での議論を踏まえて理事長及び学長からの「将来構想の策定に当たっての基本的な考え方」の中に、校舎整備についても示されている。</p> <p>今後は、昨年 12 月に理事会で承認されたこの基本的な考え方に基づいて、定員のあり方などの議論を進め、実施時期、事業規模、事業費など、より具体的な内容について検討を進めていく必要がある。</p> <p>2. 第 2 号基本金組入れ計画</p> <p>第 2 号基本金は、新校舎建設のため、2009 年度から基金造成を行っており、本年度も、着実な基金造成に努めたところである。</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 将来構想の検討を進め校舎整備についての計画を策定する。</p>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>2012 年度の課題において「新校舎建築計画の立案」が挙げられて以来、未だ、進捗が明確でない。同じ活動目標を数年に渡り掲げながら、明確な進捗がみられない状況は改善の必要がある。将来構想の検討と併せ、計画的に改善に取り組む必要がある。</p>



## XII. 管理運営

担 当：事務局長

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 学長のリーダーシップが発揮できる支援体制を整える。</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 学長のリーダーシップが発揮できる支援体制を整える。</p> <p>学校教育法及び国立大学法人法の一部を改正する法律及び学校教育法施行規則及び国立大学法人法等の一部を改正する省令が平成 27 年 4 月に施行されたことに伴い、文部科学省からは改正法の趣旨を踏まえた内部規則の総点検や見直しが求められ、本学として内部規程全般の見直しを行ったところである。</p> <p>今後とも、法令改正の趣旨を踏まえて、教育研究評議会、教授会及び研究科委員会の円滑な実施と運営に努めながら、引き続き学長のリーダーシップが発揮できる環境の整備に努めていく。</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 学長のリーダーシップが発揮できる支援体制を整える。</p>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>教学組織の権限と責任を明確にし、学長のリーダーシップのもと、適正な運営が行われることを期待する。</p>

XIII. 財務

担 当：財務室

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 中・長期的な財政計画の立案</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 昨年 12 月に理事会で承認された天使学園の「将来構想の策定に当たっての基本的な考え方」に基づき、将来構想について検討を進めることとしている。</p> <p>将来構想に関する検討の中で、天使学園の理念、ミッションを実践するための学部・大学院の教育体制に関わる様々な課題についての学園としての方針を踏まえて、将来構想を実施する計画の策定と併せて、本学園の財政状況を踏まえた中・長期の財政計画を検討し、策定する必要がある。</p> <p>特に、将来構想の柱となるような事業については、その実施時期などを考慮しながら、資金需要に対応できるよう財源の確保について検討の上で、中・長期的な財政計画を策定する必要がある。</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 中・長期的な財政計画の立案</p>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>将来構想を踏まえた財務計画が円滑に進められるよう、研究科や種々委員会とも連携し、適正な財務管理がなされることを期待する。</p>



XIV. 事務組織

担 当：事務局長

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 点検・評価項目「関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備と適切な運用」についての取り組み「事務機能の改善・業務内容の多様化への対応策」に係るシステムの円滑な運用と、新たなシステムの導入</p> <p>2. 点検・評価項目「関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備と適切な運用」についての取り組みに係る規程類の引き続き改正</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 「事務機能の改善・業務内容の多様化への対応策」について</p> <p>学園全体の IT 化を推進するため、2016 年度においては、学生支援ポータルサイト (T-NAVI)、出欠管理システム、新会計システム (キャンパスプラン) の運用を開始した。</p> <p>T-NAVI の導入により、学生への連絡事項は紙による掲示から WEB 連絡に移行し、ペーパーレス化が図られた。また、履修登録については、学生による WEB 入力が可能となり、事務作業の負担が軽減された。</p> <p>後期より稼働した出欠管理システムは、学生及び教員の協力を得て動作検証を実施したが、安定稼働までには至っておらず、継続して改善を図っていく。</p> <p>キャンパスプランについては、現行システムとの並行運用を行っており、今後、新年度における本格稼働を目指して取り組む。</p> <p>ポータルサイト及び会計システムの導入により、煩雑な事務処理を軽減することができたが、導入初年度ということもあり、全学生、教職員が有効に活用するまでには至らず、2017 年度も事務局関係各課が連携して安定的な運用を目指す。</p> <p>2. 「関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備と適切な運用」について</p> <p>これまで「学校教育法及び国立大学法人法の一部を改正する法律」及び「学校教育法施行規則及び国立大学方針法施行規則の一部を改正する省令」の施行に伴い、学内規程等の総点検・見直しを実施し、必要な改正を行ってきており、2016 年度においても法令改正に伴い学内規程についての改正を進めてきたところである。</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 点検・評価項目「関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備と適切な運用」についての取り組み「事務機能の改善・業務内容の多様化への対応策」に係るシステムの円滑な運用に努める。</p>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>ポータルサイト及び会計システムの導入により、煩雑な事務処理を軽減できたことについては評価する。事務局各課が連携して更なる安定的な運用を目指すことに期待する。</p>

XV. 自己点検・評価活動

担 当： 自己点検評価委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年報の発行</li> <li>2. 活動報告会の実施による課題及び次年度への改善点の明確化と学内 PDCA サイクル確立の検討</li> <li>3. 前回大学基準協会報告書結果及び 2018 年度審査に向けた準備の検討</li> <li>4. 研究業績システム導入及び運用</li> </ol>
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護栄養学部・看護栄養学研究科及び助産研究科の年報は、予定通り 6 月末に発刊した。</li> <li>2. 活動報告会は 2017 年 3 月 18 日に開催。学内の課題の共有、連携を目指すための報告会は今年度で 5 年を経過し定例化されつつある。しかし、課題の共有を図り全学的 PDCA サイクルによる自己点検評価活動は、未だ十分な活動に至っていないのが現状である。</li> <li>3. 大学基準協会への改善報告書に対し、2016 年 4 月 4 日に検討結果についての通知があった。引き続き努力が望まれるとされた項目があったが、2018 年度審査に向けて改善を検討する必要がある。</li> <li>4. 研究業績システムを導入したことで、入力及び公開がスムーズになった。しかし、大学基準協会の研究業績様式に合わせているため、今後入力項目を増やして充実させる必要がある。</li> </ol>
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内部質保証の充実を目指した大学の自己点検活動の展開</li> <li>2. 自己点検評価の構築</li> <li>3. 年報の作成および報告会の実施（PDCA サイクルとなるものを目指す）</li> <li>4. 2018 年度審査に向けた準備</li> <li>5. 研究業績システムの運用と充実</li> </ol>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内部質保証については、医療保健制度・体制の変化に対応できる学生を輩出すべく、3 ポリシーの見直し・検討を 2020 年の新カリキュラム開始を目途に進行させている。</li> <li>2. PDCA サイクルについては、自己点検評価およびその報告会により、課題を共有している。最終的な行動計画・執行の決定は理事会の議を経て行われるが、教学をまとめる教育研究評議会、教学と理事会を繋ぐ学園運営連絡会の役割が大きいため、今後はその会議をより充実させていく必要がある。</li> <li>3. 2018 年度大学評価審査に向けた準備を進める。</li> <li>4. 実習に要する時間が多い教員の研究支援体制をさらに強化し（若手教員指導体制、特別研究費、研究相談等の充実）、研究力・教育力の向上を目指す。</li> </ol>



自己点検・評価資料

## 目 次

I. 学事歴	23
II. 2016年度開講科目一覧	25
III. 学生数・奨学金の採用状況	28
IV. 国家試験合格率	29
V. 就職・進学状況	30
VI. 2017年度入学試験結果	32
VII. 教員組織	33
VIII. 事務組織	34
IX. 研究等の活動	35
X. 組織図	37
XI. 会議の開催状況	38
XII. 委員会構成一覧	46
XIII. 委員会の活動報告	47
XIV. 図書館の利用状況	58
XV. 情報処理室の利用状況	59
XVI. 施設・設備の状況	60
XVII. 財務状況	62

I. 2016 年度 学事暦 (助産研究科)

【前期】

		日	月	火	水	木	金	土	行事予定等	
4月							1	2	4日(月)13:00~ 5日(火) 6日(水)  21日(木)午前	入学式・新入生オリエンテーション 新入生オリエンテーション・2年次ガイダンス・定期健康診断 新入生修養会  イースターの集い
	3	4	5	6	7	8	9			
	10	11	12	13	14	15	16			
	17	18	19	20	21	22	23			
	24	25	26	27	28	29	30			
5月	1	2	3	4	5	6	7	9日(月) 18日(水)午後 24日(火)午後		
	8	9	10	11	12	13	14			
	15	16	17	18	19	20	21			
	22	23	24	25	26	27	28			
	29	30	31							
6月				1	2	3	4	13日(月) 13日(月) 17日(金) 27日(月)	基礎1年:「マタニティサイクル助産学基礎実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」開始 教育2年:「臨床助産教育(clinical Teaching)実習」開始 基礎2年:「マタニティサイクル独立助産実習」終了(前半グループ) 基礎2年:「マタニティサイクル独立助産実習」開始(後半グループ)	
	5	6	7	8	9	10	11			
	12	13	14	15	16	17	18			
	19	20	21	22	23	24	25			
	26	27	28	29	30					
7月						1	2			
	3	4	5	6	7	8	9			
	10	11	12	13	14	15	16			
	17	18	19	20	21	22	23			
	24	25	26	27	28	29	30			
8月		1	2	3	4	5	6	5日(金) 12日(金) 12日(金) 22日(月)~26日(金) 29日(月)	基礎2年:「マタニティサイクル独立助産実習」終了(後半グループ) 基礎1年:「マタニティサイクル助産学基礎実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」終了 教育2年:「臨床助産教育(clinical Teaching)実習」終了 基礎1・2年、教育1年:補講期間・前期定期試験 夏期休暇開始	
	7	8	9	10	11	12	13			
	14	15	16	17	18	19	20			
	21	22	23	24	25	26	27			
	28	29	30	31						
9月					1	2	3	23日(金) 28日(水) 26日(月)	夏期休暇終了 教育2年:修了感謝のミサ、学位記授与 基礎2年:「マタニティサイクル助産学統合実習Ⅱ」開始(第1グループ)	
	4	5	6	7	8	9	10			
	11	12	13	14	15	16	17			
	18	19	20	21	22	23	24			
	25	26	27	28	29	30				

学年	専攻	学内授業期間	臨地実習期間	
1年次	基礎	4月7日(木) ~ 6月10日(金)	基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	6月13日(月) ~ 8月12日(金)
	教育	8月17日(水) ~ 8月26日(金)	—————	—————

【後期】

		日	月	火	水	木	金	土	行事予定等	
10月								1		
		2	3	4	5	6	7	8	7日(金)	基礎2年：「マタニティイクル助産ケア統合実習Ⅱ」終了(第1グループ)
		9	10	11	12	13	14	15	11日(火)	基礎2年：「マタニティイクル助産ケア統合実習Ⅱ」開始(第2グループ)
		16	17	18	19	20	21	22	21日(金)	基礎2年：「マタニティイクル助産ケア統合実習Ⅱ」終了(第2グループ)
		23	24	25	26	27	28	29	24日(月)	基礎2年：「マタニティイクル助産ケア統合実習Ⅱ」開始(第3グループ)
		30	31							
11月				1	2	3	4	5	31日(月)～4日(金)	基礎1年： 演習、実習リエンション
		6	7	8	9	10	11	12	4日(金)	基礎2年：「マタニティイクル助産ケア統合実習Ⅱ」終了(第3グループ)
		13	14	15	16	17	18	19	7日(月)	基礎1年：「マタニティイクル助産ケア統合実習Ⅰ」開始
		20	21	22	23	24	25	26		
		27	28	29	30					
						1	2	3		
12月		4	5	6	7	8	9	10	8日(木)	創立記念日
		11	12	13	14	15	16	17	12日(月)	教育1年：「独立助産実習」開始
		18	19	20	21	22	23	24	14日(水)午前	クリスマス集い
		25	26	27	28	29	30	31	25日(日)	クリスマス降誕祭
		26	27	28	29	30	31		26日(月)	基礎1・2年：冬期休暇開始
1月		1	2	3	4	5	6	7	6日(金)	基礎1・2年：冬期休暇終了
		8	9	10	11	12	13	14		
		15	16	17	18	19	20	21	20日(金)	教育1年：「独立助産実習」終了
		22	23	24	25	26	27	28		
		29	30	31					30日(月)	教育1年：冬期休暇開始
2月				1	2	3	4			
		5	6	7	8	9	10	11	10日(金)	教育1年：冬期休暇終了
		12	13	14	15	16	17	18	10日(金)	基礎1年：「マタニティイクル助産ケア統合実習Ⅰ」終了
		19	20	21	22	23	24	25		
		26	27	28						
3月				1	2	3	4		3日(金)	修了前修養会
		5	6	7	8	9	10	11	14日(火)	修了・卒業感謝の会
		12	13	14	15	16	17	18	15日(水)10:00～	修了証書・学位記授与式
		19	20	21	22	23	24	25		
		26	27	28	29	30	31			

学年	専攻	学内授業期間	臨地実習期間	
1年次	基礎	9月26日(月)～11月4日(金) 2月13日(月)～3月3日(金)	統合実習Ⅰ	11月7日(月)～12月22日(木) 1月10日(火)～2月10日(金)
	教育	9月26日(月)～12月9日(金) 2月13日(月)～3月3日(金)	独立助産実習	12月12日(月)～1月20日(金) (期間内1人当り：原則6週間)
2年次	基礎	9月26日(月)～12月22日(木) 1月10日(火)～2月17日(金)	統合実習Ⅱ	9月26日(月)～11月4日(金) (期間内1人当り：2週間)

II. 2016 年度開講科目一覧

【助産基礎分野】		2010年度以降入学生対象									
区分	授業科目	学年	学期	単位数		授業区分			履修方法及び 修了要件		
				必修	選択	講義	演習	実習			
基礎科目	概念形成	助産学概論	1	前	1		1			修了要件は、選択科目3単位以上を含む 56単位を修得すること。 なお、選択科目は、①から④のいずれかの領域の単位を必ず修得し、かつ①、②、③の領域を選択した場合は、	
		助産哲学・倫理Ⅰ	1	後	1		1				
		助産哲学・倫理Ⅱ	2	後		1	1				
		出産の文化	1	前	1		1				
	専門基礎	女性のフィジカルイグザミネーション	1	前	1			1			
		助産薬理学Ⅰ	1	前	1		1				
		助産薬理学Ⅱ	2	前	1		1				
		妊産褥婦乳幼児の栄養	1	前	1		1				
		助産女性学	1	前	1		1				
		助産カウンセリング	1	後	1			1			
		健康教育論Ⅰ	1	前	1		1				
		健康教育論Ⅱ	2	前	1			1			
		助産研究法	1	後	1		1				
		助産機能	助産管理論Ⅰ	1	後	1		1			
	助産管理論Ⅱ		2	前	1		1				
	助産師教育論		2	前	1		1				
	助産師教育方法論		2	後		1	1				
	母子保健行政・財政論		1	後	1		1				
	母子保健活動論（疫学・統計を含む）		2	前	1		1				
実践専門科目	マタニティサイクル助産ケア	マタニティサイクル助産ケアⅠ	1	通年	2		1	1			
		マタニティサイクル助産ケアⅡ	1	通年	2		1	1			
		マタニティサイクル助産ケアⅢ	1	通年	2		1	1			
		ハイリスク助産学Ⅰ	1	後	1		1				
		ハイリスク助産学Ⅱ	1	後	1		1				
		ハイリスク助産演習	2	前	1			1			
		独立助産実践概論	2	前	1		1				
	独立助産演習	2	前	1			1				
	マタニティサイクル助産ケア実践	マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ	1	前	2				2		
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅱ	1	前	2				2		
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅲ	1	前	2				2		
		マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰ	1	後	6				6		
		マタニティサイクル独立助産実習	2	前	6				6		
マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ		2	後	2				2			
発展・展開科目	発展・展開	子育て支援論Ⅰ	1	後	1		1				
		子育て支援論Ⅱ	2	前後	①	1		1			
		子育て支援論演習	2	後		1		1			
		性教育Ⅰ	2	前	1		1				
		性教育Ⅱ	2	前後	②	1		1			
		性教育実習	2	後		1			1		
		ウィメンズヘルスⅠ	1	後	1		1				
		ウィメンズヘルスⅡ	2	前後	③	1		1			
		ウィメンズヘルス演習	2	後		1		1			
		国際助産学Ⅰ	2	前	1		1				
		国際助産学Ⅱ	2	前後	④	1		1			
		国際助産学実習	2	後		2			2		
特別統合研究科目	特別統合課題研究	2	通年	1			1				
合計				53	11	26	15	23			



## 【助産教育分野】

2010年度以降入学生対象

区分	授 業 科 目	学年	学期	付与 対象 科目	単位数		授業区分			履修方法 及び 修了要件	
					必修	選択	講義	演習	実習		
基 礎 科 目	概念形成	助産学概論	1	前		1		1			修了要件は選択科目1単位以上を含む 56単位を修得すること。
		助産哲学・倫理Ⅰ	1	後		1		1			
		助産哲学・倫理Ⅱ	1	後			1	1			
		出産の文化	1	前		1		1			
	専門基礎	女性のフィジカルイグザミネーション	1	前			1		1		
		助産薬理学Ⅰ	1	前	※	1		1			
		助産薬理学Ⅱ	2	前		1		1			
		妊産褥婦乳幼児の栄養	1	前	※	1		1			
		助産女性学	1	前		1		1			
		助産カウンセリング	1	後			1		1		
		健康教育論Ⅰ	1	前	※	1		1			
		健康教育論Ⅱ	2	前		1			1		
	助産機能	助産管理論Ⅰ	1	後			1	1			
		助産管理論Ⅱ	1	前		1		1			
		母子保健行政・財政論	1	後			1	1			
		母子保健活動論（疫学・統計を含む）	2	前			1	1			
実 践 専 門 科 目	マタニティ サイクル 助産ケア	マタニティサイクル助産ケアⅠ	1	通年	※	2		1	1		
		マタニティサイクル助産ケアⅡ	1	通年	※	2		1	1		
		マタニティサイクル助産ケアⅢ	1	通年	※	2		1	1		
		ハイリスク助産学Ⅰ	1	後			1	1			
		ハイリスク助産学Ⅱ	1	後			1	1			
		独立助産実践概論	1	前		1		1			
		独立助産演習	1	前		1			1		
	マタニティ サイクル 助産ケア実践	マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ	1	前	※	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅱ	1	前	※	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅲ	1	前	※	2				2	
マタニティサイクル助産ケア統合実習		1	後	※	6				6		
マタニティサイクル独立助産実習		1	後		6				6		
発 展 ・ 展 開 科 目	発展・展開	子育て支援論	1	後			1	1			
		性教育	1	前			1	1			
		ウィメンズヘルス	1	後			1	1			
		国際助産学	1	前			1	1			
	助産・看護教育	教育概論	1	後		2		2			
		教育計画(カリキュラム)の原理と展開	1	後		3		2	1		
		教授学習法の理論と展開	1	後		3		2	1		
		教育評価	1	後		3		2	1		
		教育機関の運営と評価	1	後		2		2			
		助産教育実習	2	前		2			1	1	
		臨床助産教育実習	2	前		2			1	1	
	特別統合研究科目	助産教育課題研究	2	前		2			2		
	合 計					21	55	13	34	14	20

## 【助産教育分野】

2015年度以降入学生対象

区分	授業科目	学年	学期	単位数		授業区分			履修方法及び 修了要件	
				必修	選択	講義	演習	実習		
助産専門科目	概念形成	助産学概論	1	前	1		1			修了要件は選択科目8単位以上を含む 45単位以上を修得すること。
		助産哲学・倫理Ⅰ	1	後	1		1			
		助産哲学・倫理Ⅱ	1	後	1		1			
		出産の文化	1	前		1	1			
		助産女性学	1	前		1	1			
	助産教育技術	助産カウンセリング	1	後	1			1		
		健康教育論Ⅰ	1	前	1		1			
		健康教育論Ⅱ	2	前	1			1		
		女性のフィジカルイグザミネーション	1	前		1		1		
	助産ケア特論・実践	独立助産実践特論	1	前	1		1			
		独立助産演習	1	前	1			1		
		独立助産実習	1	後	6				6	
		助産薬理学	2	前		1	1			
		ハイリスク助産学Ⅰ	1	後		1	1			
		ハイリスク助産学Ⅱ	1	後		1	1			
	助産機能	助産管理論Ⅰ	1	後		1	1			
		助産管理論Ⅱ	1	前	1		1			
		母子保健行政・財政論	1	後		1	1			
		母子保健活動論（疫学・統計を含む）	2	前		1	1			
	発展・展開	子育て支援論	1	後		1	1			
		性教育	1	前		1	1			
		ウィメンズヘルス	1	後		1	1			
		国際助産学	1	前		1	1			
	教育科目	助産・看護教育	教育概論	1	前	2		2		
教育計画(カリキュラム)の原理と展開			1	通年	2		2			
教育計画(カリキュラム)の原理と展開演習			1	後	1			1		
教授学習法の理論と展開			1	通年	2		2			
教授学習法の理論と展開演習			1	後	1			1		
教育評価			1	後	2		2			
教育評価演習			1	後	1			1		
教育機関の運営と評価			1	後	2		2			
助産教育(Classroom Teaching)演習			2	前	1			1		
助産教育(Classroom Teaching)実習			2	前	1				1	
臨床助産教育(Clinical Teaching)演習		2	前	1			1			
臨床助産教育(Clinical Teaching)実習		2	前	2				2		
特別統合研究		助産研究法Ⅰ	1	前	1		1			
		助産研究法Ⅱ	1	後	1			1		
	助産教育課題研究	2	前	2			2			
合計						37	13	29	12	9

### Ⅲ. 学生数・奨学金の採用状況

在籍者数

(2016年5月1日現在)

所属	学科・専攻	コース名等	収容定員	1年	2年	3年	4年	計	収容定員充足率
看護栄養学部	看護学科		348	94 (6)	93 (9)	94 (2)	99 (3)	380 (20)	109.2%
	栄養学科		350	91 (3)	83 (2)	90 (2)	91 (0)	355 (7)	101.4%
		(うち編入生)	10	—	—	4 (0)	4 (0)	8 (0)	80.0%
	小 計			698	185 (9)	176 (11)	184 (4)	190 (3)	735 (27)
助産大学院 助産研究科	助産専攻	助産基礎分野	60	12 —	18 —	— —	— —	30 —	50.0%
		助産教育分野	20	2 —	2 —	— —	— —	4 —	20.0%
	小 計			80	14 —	20 —	— —	34 —	42.5%
看護大学院 看護学専攻 栄養管理学専攻	看護学専攻	ホスピタル緩和ケア看護学コース	28	0 (0)	2 (0)	— —	— —	2 (0)	62.5%
		公衆衛生看護学コース		0 (0)	1 (0)	— —	— —	1 (1)	
		成人看護学コース		0 (0)	0 (0)	— —	— —	0 (0)	
		精神看護学コース		0 (0)	0 (0)	— —	— —	0 (0)	
		保健師コース		5 (0)	0 (0)	— —	— —	5 (0)	
	栄養管理学専攻	博士前期課程	6	0 (0)	6 (0)	— —	— —	6 (0)	100.0%
		博士後期課程	6	0 (0)	1 (0)	2 (0)	— —	3 (0)	50.0%
	小 計			40	5 (0)	10 (0)	2 (0)	— —	17 (0)
合 計			818	204 (9)	206 (11)	186 (4)	190 (3)	786 (27)	96.1%

社会人学生数

(2016年5月1日現在)

所属	学 科	1年	2年	3年	4年	計
看護栄養学部	看護学科	4 (0)	4 (0)	4 (0)	9 (2)	21 (2)
	栄養学科	0 (0)	2 (1)	2 (0)	0 (0)	4 (1)
	小 計	4 (0)	6 (1)	6 (0)	9 (2)	25 (3)

奨学金の種類と採用数（2016年3月現在）

対象	奨学金の種類		奨学金の金額		貸与・給付の別	採用数
全学生	天使大学貸与奨学金		月 額	30,000円	無利子貸与	35人
	日本学生 支援機構 奨 学 金	第一種	月 額	30,000円 または、自宅通学 54,000円 自宅外通学 64,000円	無利子貸与	163人
		第二種	月 額	30,000円、50,000円 80,000円、100,000円 120,000円	有利子貸与 利率変動3%以内	193人
2 年 次 生 以 上	天使大学シスター川原ユキエ 記念奨学金		年 額	看護学科 600,000円 栄養学科 500,000円	給付、返還不要	10人
	天使大学給付奨学金		年 額	200,000円	給付、返還不要	20人
	天使大学同窓会奨学金		年 額	300,000円	無利子貸与	1人
1～3年 次生	学業成績優秀者奨励金		年 額	50,000円	給付	7人
看学生	北海道看護職員養成修学資金		月 額	32,000円	道内特定施設に5年以上 勤務の場合返還免除	7人
全 学 生	その他の奨学金					16人
合 計						452人

IV. 国家試験合格率

国家試験合格率

学 部・学 科	国家試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B)	合格率 (%) B/A*100	全国合格率 (%)
天使大学大学院 助産研究科	助産師国家試験	15 人	14 人	93.3%	93.2%
看護栄養学部 看護学科	看護師国家試験	99 人	96 人	97.0%	94.3%
看護栄養学部 看護学科	保健師国家試験	0 人	0 人	0.0%	94.5%
看護栄養学部 栄養学科	管理栄養士国家試験	89 人	82 人	92.1%	92.4%

V. 就職・進学状況

学科別就職希望者（2017年5月31日現在）

〔学科別就職希望者〕

学科		看護学科					栄養学科						
性別		女子		男子		計		女子		男子		計	
項目		数	割合	数	割合	数	卒業者に対する割合	数	割合	数	割合	数	卒業者に対する割合
就職希望の有無	希望有りの者	86	86.9%	3	3.0%	89	89.9%	88	96.7%	0	0.0%	88	96.7%
	希望無しの者	10	10.1%	0	0.0%	10	10.1%	3	3.3%	0	0.0%	3	3.3%
計(卒業者数)		96	97.0%	3	3.0%	99	100.0%	91	100.0%	0	0.0%	91	100.0%

〔学科別就職決定者〕

学科		看護学科					栄養学科						
性別		女子		男子		計		女子		男子		計	
項目		数	割合	数	割合	数	就職希望者に対する割合	数	割合	数	割合	数	就職希望者に対する割合
決定数/決定率		86	100.0%	3	100.0%	89	100.0%	88	100.0%	0	0.0%	88	100.0%

〔地域別・就職別決定者〕

学科		看護学科 n=89					栄養学科 n=88						
性別		女子		男子		計		女子		男子		計	
項目		数	割合	数	割合	数	就職者に対する割合	数	割合	数	割合	数	就職者に対する割合
地域別	道外	19	22.1%	1	33.3%	20	22.5%	10	11.4%	0	0.0%	10	11.4%
	道内	67	77.9%	2	66.7%	69	77.5%	78	88.6%	0	0.0%	78	88.6%
	市内(再掲)	(67)	(77.9%)	(2)	(66.7%)	(69)	(77.5%)	(58)	(65.9%)	(0)	(0.0%)	(58)	(65.9%)
職種別	看護師	86	96.6%	3	3.4%	89	100.0%	/		/		/	
	保健師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	/		/		/	
	管理栄養士	/		/		/		32	36.4%	0	0.0%	32	36.4%
	栄養士	/		/		/		23	26.1%	0	0.0%	23	26.1%
	栄養教諭	/		/		/		2	2.3%	0	0.0%	2	2.3%
	食品衛生監視員	/		/		/		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	一般企業	/		/		/		31	35.2%	0	0.0%	31	35.2%
	上記以外	/		/		/		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

〔進学状況〕

学科		看護学科				栄養学科							
性別		女子		男子		計		女子		男子		計	
項目		数		割合		進学希望者に対する割合		数		割合		進学希望者に対する割合	
進学希望者数		7		0		7		0		0		0	
進学合格者数		7		0		7		0		0		0	
						100%						0.0%	

## 2016年度求人件数・人数（2016年3月31日現在）

### 〔看護職〕

職 種	件 数				人 数			
	(市内)	道内	道外	件数合計	(市内)	道内	道外	人数合計
看護師	34	69	223	292	665	1,001	6,080	7,081
保健師	2	80	20	100	5	128	102	230
助産師	8	20	114	134	26	62	780	842
計	44	169	357	526	696	1,191	6,962	8,153

### 〔栄養士職〕

職 種	件 数				人 数			
	(市内)	道内	道外	件数合計	(市内)	道内	道外	人数合計
栄養士	68	99	32	131	560	597	1,073	1,670
管理栄養士	57	130	33	163	458	549	258	807
栄養教諭	1	2	2	4	1	4	6	10
食品衛生監視員	4	4	2	6	6	6	4	10
その他 保健医療従事者	2	10	5	15	9	47	142	189
計	132	245	74	319	1,034	1,203	1,483	2,686

### 〔一般職・その他〕

職 種	件 数				人 数			
	(市内)	道内	道外	件数合計	(市内)	道内	道外	人数合計
一般	28	60	83	143	797	1,080	2,170	3,250

合計	204	474	514	988	2,527	3,474	10,615	14,089
----	-----	-----	-----	-----	-------	-------	--------	--------

注1 (市内)は道内の内数

注2 若干名は3とカウントする

注3 保健師・助産師求人数は人数を明記してある場合以外は3とカウントする

## VI. 2017 年度入試結果

2017年度天使大学・大学院入学試験結果

### 看護栄養学部

\* ( ) は、昨年度の数字です

#### ◆看護学科

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
指定校推薦	40	4	(5)	4	(5)	4	(5)	4	(5)	1.0
公募制推薦		61	(40)	61	(40)	36	(36)	36	(36)	1.7
社会人	37	12	(13)	12	(12)	1	(2)	0	(2)	12.0
一般		291	(316)	285	(314)	73	(71)	41	(40)	3.9
センター利用	10	184	(143)	184	(143)	29	(28)	12	(10)	6.3
総計	87	552	(517)	546	(514)	143	(142)	93	(93)	3.8

#### ◆栄養学科

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
指定校推薦	42	5	(4)	5	(4)	5	(4)	5	(4)	1.0
公募制推薦		58	(49)	58	(49)	37	(38)	37	(38)	1.6
社会人	33	1	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	—
一般		100	(75)	100	(72)	44	(43)	34	(39)	2.3
センター利用	10	77	(59)	77	(59)	16	(12)	12	(9)	4.8
総計	85	241	(187)	241	(184)	102	(97)	88	(90)	2.4

#### ◆栄養学科 (3年次編入)

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
	5	4	(8)	4	(8)	2	(5)	2	(4)	2.0

## 大学院 看護栄養学研究科

#### ◆看護学専攻

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
推薦	14	1	(0)	1	(0)	1	(0)	1	(0)	1.0
一般 前期		2	(5)	2	(5)	2	(5)	2	(5)	1.0
一般 後期		1	(3)	1	(3)	1	(0)	1	(0)	1.0
総計	14	4	(8)	4	(8)	4	(5)	4	(5)	1.0

#### ◆栄養管理学専攻 博士前期課程

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
一般 前期	3	2	(0)	2	(0)	1	(0)	1	(0)	2.0
一般 後期		1	(0)	1	(0)	1	(0)	0	(0)	1.0
総計	3	3	(0)	3	(0)	2	(0)	1	(0)	1.5

#### ◆栄養管理学専攻 博士後期課程

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
一般 前期	2	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	—
一般 後期		0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	—
総計	2	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	—

## 大学院 助産研究科

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)	
基礎分野	推薦	10	7	(5)	7	(5)	7	(5)	7	(5)	1.0
	前期一般	15	11	(7)	10	(4)	7	(3)	6	(3)	1.4
	前期社会人		2	(2)	2	(2)	1	(2)	1	(2)	2.0
	後期一般	5	4	(1)	4	(1)	2	(1)	2	(1)	2.0
	後期社会人		1	(1)	1	(1)	0	(1)	0	(1)	—
分教 野育	前期	10	0	(1)	0	(1)	0	(0)	0	(0)	—
	後期		0	(2)	0	(2)	0	(2)	0	(2)	—
総計	40	25	(19)	24	(16)	17	(14)	16	(14)	1.4	

VII. 教員組織

教員組織一覽

(2016年5月1日現在)

所 属		教授	准教授	講師	助教	助手	計
大学院	助産研究科	7人	1人	1人	2人	0人	11人
	兼任教員(非常勤講師)	—	—	—	—	—	29人
看護栄養学部	看護学科	6人	5人	9人	8人	3人	31人
	栄養学科	8人	5人	6人	2人	3人	24人
	教養教育科	4人	3人	0人	0人	0人	7人
	計	18人	13人	15人	10人	6人	62人
	兼任教員(非常勤講師)	—	—	—	—	—	101人
合計		25人	14人	16人	12人	6人	203人

専任教員年齢構成

(2016年5月1日現在)

所属	職位	71歳以上	66歳～70歳	61歳～65歳	56歳～60歳	51歳～55歳	46歳～50歳	41歳～45歳	36歳～40歳	31歳～35歳	26歳～30歳	計	
助産研究科	教授	1	1	1	4	0	0	0	0	0	0	7	
		14.3%	14.3%	14.3%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
	准教授	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	講師	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
計	1	1	1	4	2	1	1	0	0	0	0	11	
	9.1%	9.1%	9.1%	36.4%	18.2%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%	
小計	1	1	1	4	2	1	1	0	0	0	0	11	
	9.1%	9.1%	9.1%	36.4%	18.2%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
看護栄養学部・看護栄養学研究科	教授	1	6	6	1	2	2	0	0	0	0	18	
		5.6%	33.3%	33.3%	5.6%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
	准教授	0	0	3	1	6	2	1	0	0	0	0	13
		0.0%	0.0%	23.1%	7.7%	46.2%	15.4%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	講師	0	0	1	2	2	6	3	1	0	0	0	15
		0.0%	0.0%	6.7%	13.3%	13.3%	40.0%	20.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	1	1	3	3	2	0	0	10
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	10.0%	30.0%	30.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100%
計	1	6	10	4	11	11	7	4	2	0	0	56	
	1.8%	10.7%	17.9%	7.1%	19.6%	19.6%	12.5%	7.1%	3.6%	0.0%	0.0%	100%	
助手	0	0	0	0	0	1	1	0	1	3	0	6	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	16.7%	50.0%	0.0%	100%	
小計	1	6	10	4	11	12	8	4	3	3	3	62	
	1.6%	9.7%	16.1%	6.5%	17.7%	19.4%	12.9%	6.5%	4.8%	4.8%	4.8%	100%	
合計	2	7	11	8	13	13	9	4	3	3	3	73	
	2.7%	9.6%	15.1%	11.0%	17.8%	17.8%	12.3%	5.5%	4.1%	4.1%	4.1%	100%	

※定年：65歳



教員の任免・昇任者一覧

(2017年3月31日現在)

学科・科	採用者					昇任者		退職者				
	教授	准教授	講師	助教	助手	講師から准教授	助教から講師	教授	准教授	講師	助教	助手
助産研究科	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	1人	0人
看護学科	1人	0人	1人	3人	1人	1人	1人	1人	0人	1人	1人	1人
栄養学科	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	3人	0人	1人	0人	3人
教養教育科	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人
計	3人	0人	1人	3人	1人	1人	1人	5人	1人	3人	2人	4人

VIII. 事務組織

(2016年5月1日現在)

区分	部門	専任職員		常勤嘱託職員	臨時職員	派遣職員	その他	計
			うち管理職					
法人業務系	事務局長	0	0	1	0	0	0	1
	参与	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	1	0	0	0	1
大学業務系	総務課	4	1	3	3	0	0	10
	学務課	5	1	7	2	0	0	14
	図書情報課	4	1	3	0	0	0	7
	財務室	4	1	2	5	0	0	11
	入試・広報室	3	1	1	0	0	0	4
	計	20	5	16	10	0	0	46
合計		20	5	17	10	0	0	47

## IX. 研究等の活動

独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業（代表者）の採択状況

		種別	研究代表者	研究課題
1	継続	基盤研究(C)	佐藤 香苗	地域で暮らす認知症高齢者のための新規栄養ケアモデルの構築と応用可能性
2	継続	基盤研究(C)	伊織 光恵	ダウン症のある女子の母親が行う初経教育の構築
3	新規	基盤研究(C)	松下 真美	食事タンパク質・アミノ酸の抗肥満効果に対する褐色脂肪熱産生の寄与

特別研究費の助成状況

		種別	研究代表者	研究課題
1		特別研究費	大久保 岩男	北海道産サルナシおよびマタタビ果実のシステインプロテアーゼの構造解析および生理活性物質産生能に関する研究
2		特別研究費	清水 真理	特定(多数)給食施設における栄養管理に関する実態と指導および支援方法の検討
3		特別研究費	針金 佳代子	幼児のいるひとり親世帯の母親の、健康な食生活を形成するための家族のニーズ
4		特別研究費	小澤 涼子	第一次産業従事者の健康観の概念分析

受託研究等

	種別	代表者	担当者	研究・事業名
1	奨学寄付	松下 真美	—	ヒト褐色脂肪に対するカプシエイト類の効果に関する研究に対する助成
2	奨学寄付	山口 敦子	—	天使大学看護栄養学部栄養学科および看護栄養学研究科栄養管理学専攻における教育研究の発展の寄与に対する助成
3	奨学寄付	荒川 義人	—	道産の機能性リッチ食材の調理加工による機能性成分の動態に関する研究促進に対する助成
4	受託研究	松下 真美	—	ポリフェノールによるヒト褐色脂肪活性化に関する研究
5	受託研究	松下 真美	—	褐色脂肪組織活性と食後消化管ホルモン動態との関連性評価検討
6	受託事業	山部 秀子	—	コープさっぽろ天使大学連携プロジェクト
7	受託事業	山部 秀子	—	コープさっぽろ配食事業連携
8	受託事業	荒川 義人	—	音更町第2次食育・地産地消促進計画策定に係る監修、編集等委託業務
9	受託事業	山口 敦子	—	平成28年度「社会的課題に対応するための学校給食の活用」事業
10	共同研究	荒川 義人	西 隆司 村尾 咲音	たまねぎ新品種「ゆめせんか」の加工特性解明と高品質安定生産技術確立による需要促進
11	共同研究	大久保 岩男	武藏 学 山口 敦子 清水 真理 鈴木 純子 峯岸 夕紀子 百々瀬いづみ 松下 真美	日本食スタイルの評価と健康影響の検討

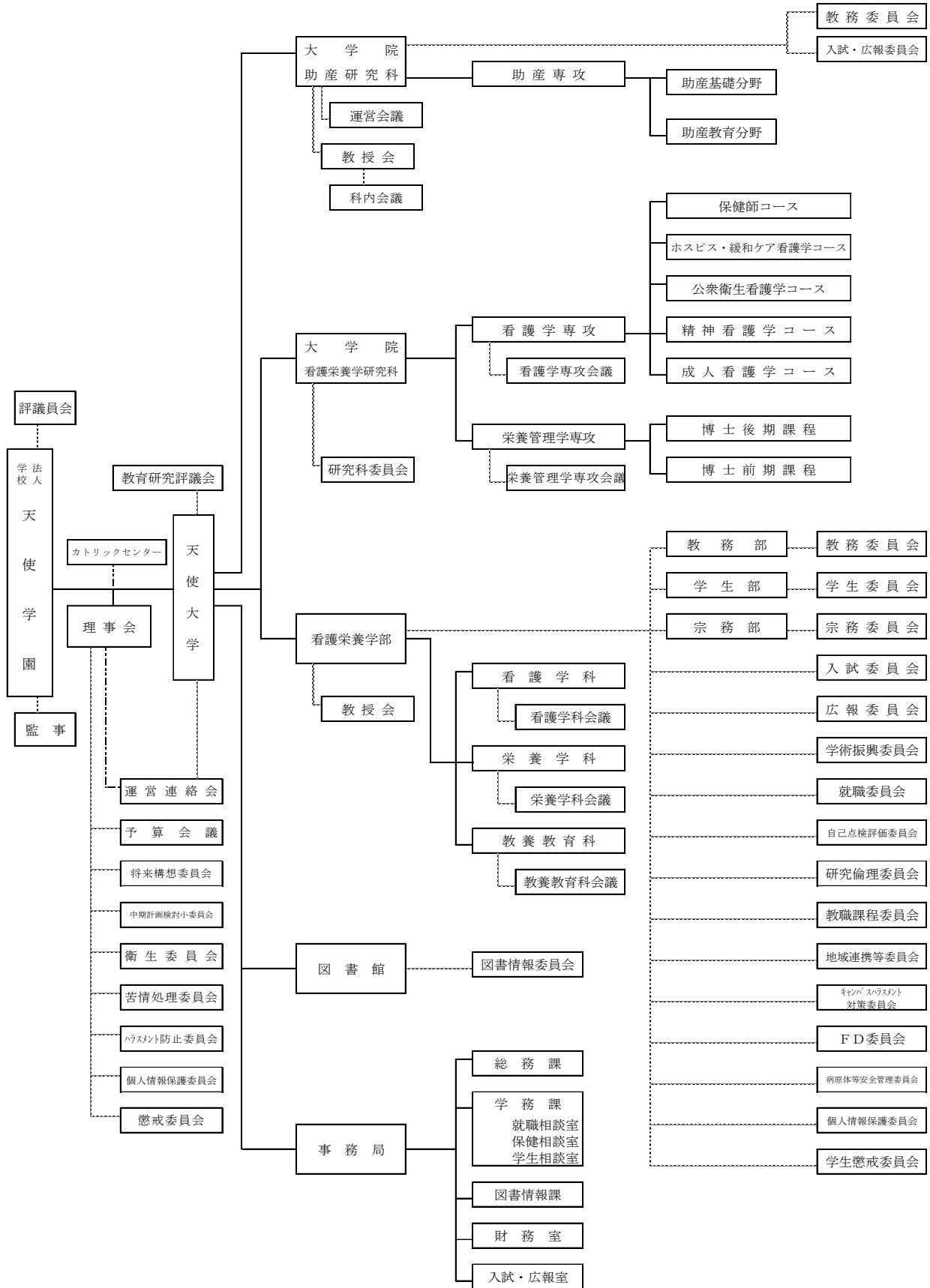
その他の活動

分類	活動内容
天使大学大学院看護栄養学研究科看護学専攻ホスピス緩和ケア特別講義	2016年7月7日（木）、大学院看護栄養学研究科看護学専攻ホスピス緩和ケアコース特任教授のデボラ・ウィット・シャーマン教授（フロリダ国際大学教授）による学部生対象の「アメリカにおける緩和ケア」の特別講義が初めて行われました。看護学科1年次生と栄養学科4年次生1名が参加しました。
札幌市東区保健福祉部・東区健康づくり連絡協議会との連携	2016年度は学部学生により「広報さっぽろ東区版及びホームページでのレシピの紹介」、「食育推進ネットワーク事業への参加」、「天使健康栄養クリニックPR協力」、「天使祭での健康相談・地域の健康づくり活動の紹介」、「天使の昼食会」、「若者を対象にした料理教室」、「東区健康づくりフェスティバルの運営協力」など7事業に参加しました。
天使大学、札幌大谷大学、北海道体育大学校、札幌保健医療大学および札幌市東区による地域連携協定	札幌市東区に設置する3大学と1専門学校および札幌市東区による地域連携協定に基づき、「健康」をテーマに地域住民向けのスポーツまつりを2016年10月23日（日）につどむで開催し、「天使大の健康塾」というブースで、看護・栄養の学生達が参加者への食事のアドバイスや血圧測定を行いました。

X. 組織図

学校法人天使学園 管理運営組織図 (2016年4月1日)

天使大学大学院 助産研究科  
 天使大学大学院 看護栄養学研究科  
 天使大学 看護栄養学部



## XI. 会議の開催状況

### 看護栄養学部教授会

回	開催年月日	審議・報告事項
臨時	2016年4月1日(金)	1. 審議事項 なし 2. 報告事項 1) 2016年度教授会構成員について 2) 2016年度教授会・研究委員会開催予定について 3) 2016年度一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験に係る追加合格について
1	2016年4月12日(火)	1. 審議事項 1) 退学願の許可について 2) 学科・科会議規程(12-26)の一部改正(案)について 3) 入試委員会規程(12-36)の一部改正(案)について 4) 教務委員会規程(12-39)の一部改正(案)について 5) 学生委員会規程(2-43)の一部改正(案)について 6) 宗務委員会規程(12-67)の一部改正(案)について 7) 教職課程委員会規程(12-81)の一部改正(案)について 8) 動物実験委員会規程(12-85)の一部改正(案)について 9) 病原体等安全管理委員会規程(12-95)の一部改正(案)について 10) 専任職員の職務に関する規程(13-71)の一部改正(案)について 11) 入学者選考規程(14-1)の一部改正(案)について 12) 編入学に関する規程(14-6)の一部改正(案)について 13) 転入学に関する規程(14-11)の一部改正(案)について 14) 再入学に関する規程(14-16)の一部改正(案)について 15) 転学科に関する規程(14-21)の一部改正(案)について 16) 外国人留学生の入学に関する規程14-31の一部改正案について 17) 研究生に関する規程(14-36)の一部改正(案)について 18) 科目等履修生規程(14-46)の一部改正(案)について 19) 特別聴講学生に関する規程(14-51)の一部改正案について 20) 委託生に関する規程(14-56)の一部改正案について 21) 他大学等における履修の取扱いに関する規程(14-71)の一部改正(案)について 22) 履修規程(14-81)の一部改正(案)について 23) 教職課程履修規程(14-121)の一部改正(案)について 24) 学業成績優秀者奨励金に関する規程(15-16)の一部改正(案)について 25) 兄弟姉妹同時在学時授業料等免除に関する規程(15-31)の一部改正(案)について 26) 無料職業紹介業務運営規程(15-66)の一部改正(案)について 27) 職業紹介に関わる個人情報適正管理規程(15-71)の一部改正(案)について 28) 動物実験に関する規程(17-56)の一部改正(案)について 2. 報告事項 1) 2016年度アッセンブリ・アワーの実施について 2) 2016年度イースターの集い、および今後の宗教行事の予定について 3) 2016年度校務分掌について 4) 2016年度合唱コンクールの実施について 5) 2016年度学校医(内科医・精神神経科医)について 6) 2016年度天使大学改修工事の予定について
2	2016年5月11日(水)	1. 審議事項 1) 2016年度既修得単位の認定・単位授与について 2) 2017年度看護栄養学部、栄養学科編入学試験、指定校推薦入学試験学生募集要項について 2. 報告事項 1) 2016年度英語プレースメントテスト実施結果について 2) 2016年度化学・生物診断テスト実施結果について 3) 研究に関するアンケート調査結果報告(2015年度実施)について 4) 2016年度天使祭について 5) 2016年度葦の会役員、部活動団体について 6) 2017年度日本カトリック大学連盟総会について 7) 第32回カトリック医療関連学生セミナー2016in札幌の開催について 8) 教職員緊急連絡網の取扱いについて 9) 消防訓練について
3	2016年6月7日(火)	1. 審議事項 1) T-N A V I への出欠登録について 2. 報告事項 1) 学業成績優秀者奨励金該当者について 2) 委員会報告 3) 天使大学構内建造物不法侵入について

回	開催年月日	審議・報告事項
4	2016年7月5日(火)	1. 審議事項 1) 2016年度非常勤講師の委嘱について 2) 2016年度既修得単位の認定・単位授与について 3) 2016年度科目等履修生の履修科目の追加について 2. 報告事項 1) 三つのポリシー策定義務化に関する省令の改正に伴う検討について 2) 出欠管理について 3) 委員会報告 4) 休・退学願の手続きに関する申合せについて 3. 意見聴取事項 1) 教員の採用に係る募集大綱について
5	2016年8月2日(火)	1. 審議事項 1) 2016年度既修得単位の認定・単位授与について 2) 2016年度非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1) 2017年度人事方針について 2) 将来構想委員会について 3) 休・復・退学願の手続きに関する申合せについて 4) 2016年度第1回FD研修会の開催について 5) 2016年度職員研修会の実施について 6) 後援会地区懇談会および同窓会交流会について 7) 委員会報告 8) 出欠管理について 9) 旅費計算の事務取扱要領の変更について 3. 意見聴取事項 1) 教員の採用に係る募集大綱について
6	2016年9月6日(火)	1. 審議事項 なし 2. 報告事項 1) 2016年度特別研究費の採択状況について 2) 2016年度前期定期試験に関するアクシデント等について 3) 2016年度後期宗務行事予定について 4) 休学・復学について 5) 委員会報告について 3. 意見聴取事項 1) 教員の採用に係る募集大綱について 2) 学生の懲戒について
7	2016年10月4日(火)	1. 審議事項 1) 非常勤講師の委嘱について 2) 看護学科1年次復学者の進級要件について 2. 報告事項 1) 2016年度Food and Life Step-up Ceremony実施について 2) 2016年度海外研修旅行について 3) 2016年度体育祭の実施について 4) クリスマス関連行事の予定について 5) 教職員修養会の日程について 6) 休学・退学について 7) 在籍者数について 8) 委員会報告について 9) 看護学科専任教員の退職願について 3. 意見聴取事項 1) 教員の採用に係る募集大綱について
8	2016年11月1日(火)	1. 審議事項 1) 2016年度非常勤講師の委嘱変更について 2) 2017年度非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1) 校務分掌(委員会構成員)について 2) 2016年度戴帽式の実施について 3) 教職員修養会の内容等について 4) 2016年度第2回FD研修会の開催について 5) 委員会報告について 6) 栄養学科専任教員の採用について 7) 国際交流及び国際交流委員会の設置について

回	開催年月日	審議・報告事項
臨時	2016年11月16日(水)	1. 審議事項 1) 2017年度指定校推薦入学試験、公募制推薦入学試験、社会人入学試験及び栄養学科編入学試験の合否判定について
9	2016年12月6日(火)	1. 審議事項 1) 2017年度学事暦(案)について 2) 2017年度非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1) 専任教員の退職について 2) 栄養学科3年次編入学の募集停止について 3) 授業科目の成績評価に対する学生からの意見の申出の手順について 4) 学校法人天使学園創立70周年記念事業について 5) 札幌市との学生ボランティア派遣に係る協定について 6) 委員会報告について 7) 2017年度予算編成方針について 8) 韓国カトリック大学校との交流について 3. 意見聴取事項 1) 教員の採用に係る募集大綱について
10	2017年1月11日(水)	1. 審議事項 1) 2018年度入学試験日程について 2) 2017年度非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1) 2016年度2月以降の宗務行事予定について 2) 教員の退職について 3) 教員の採用について 4) 2017年度教員免許状更新講習の実施について 5) 2016年度年報の作成および活動報告会の開催について 6) 2016年度補正予算について 7) 2017年度予算編成方針について 8) 委員会報告について 2. 意見聴取事項 1) 教員の採用に係る募集大綱について
11	2017年2月10日(金)	1. 審議事項 1) 2017年度一般入学試験(栄養学科)の合否判定について 2) 2017年度非常勤講師の委嘱及び委嘱取消しについて 3) 2018年度入学試験日程の一部変更について 2. 報告事項 1) 教員の採用等について 2) 2016年度卒業証書・学位記授与式実施要領について 3) 2017年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座について 4) 学術振興委員会主催の講演会開催について 5) 2016年度海外研修旅行の実施について 6) 学生証の変更について 7) 3つのポリシーの検討状況について 8) 委員会報告について 3. 意見聴取事項 1) 教員の採用に係る募集大綱について
臨時	2017年2月16日(木)	1. 審議事項 1) 2017年度一般入学試験(看護学科)の合否判定について
臨時	2017年2月23日(木)	1. 審議事項 1) 2017年度大学入試センター試験利用入学試験(看護学科・栄養学科)の合否判定について
12	2017年2月28日(火)	1. 審議事項 1) 2016年度卒業判定について 2) 2016年度教職課程修了判定について 3) 2017年度非常勤講師の委嘱について 4) アドミッション・ポリシーの一部修正について 5) 2018年度入学式日程等について 6) 2017年度科目等履修生の受入れについて 2. 報告事項 1) 教員の採用について 2) 研究科長等の選考について 3) 専任教員の新規担当科目について 4) 2017年度会議日程について 5) 委員会報告について

回	開催年月日	審議・報告事項
臨時	2017年3月17日(金)	1. 審議事項 1) 2016年度進級判定について 2) 2017年度既修得単位の認定・単位授与について 3) 2017年度非常勤講師の委嘱及び委嘱変更について 4) アドミッション・ポリシーの一部修正について 5) 看護栄養学部の教育目的の文章表現について 2. 報告事項 1) 休学・復学について 2) T-NAV I アンケート機能の利用について 3) 出会いと親睦のゼミについて 4) 2016年度後期定期試験におけるアクシデント等について 5) 専任教員の新規授業科目担当について 6) 2017年度入学式実施要領について 7) 2016年度卒業生の就職状況(2017年3月15日現在)について 8) 2017年度第1回FD研修会の開催について 9) 2016年度学生による授業評価アンケートの報告書について 10) 天使大学における競争的資金に係る間接経費の取扱方針について 11) 非常勤講師等の講義料等に関する申合せについて



## 看護栄養学研究科研究科委員会

回	開催年月日	審議・報告事項
1	2016年4月12日（火）	1. 審議事項 1)2016年度専任教員の新規担当科目について 2)2016年度開講科目及び担当教員について 3)2016年度看護栄養学研究科の活動目標(案)について 4)天使大学大学院看護栄養学研究科専攻会議・課程会議規程(19-71)の一部改正(案)について 5)栄養管理学専攻構成員の承認について 6)2016年度専任教員の新規担当科目について 7)2016年度開講科目及び担当教員について 8)2016年度非常勤講師の委嘱取消について 2. 報告事項 1)2016年度研究科委員会構成員について 2)2016年度研究科委員会開催予定について 3)2016年度学事暦の変更について 4)2016年度看護学専攻研究計画書発表会の実施について 5)2015年度事業報告および活動のまとめについて 6)院生研究費について
2	2016年5月11日（水）	1. 審議事項 1)2016年度看護学専攻学位論文研究計画書の審査について 2)2016年度非常勤講師・特別講師の委嘱について 3)2017年度看護栄養学研究科学生募集要項について 2. 報告事項 1)看護学専攻の授業を公開授業とすることについて 2)大学院長期履修学生規程について
3	2016年6月7日（火）	1. 審議事項 1)副指導教員の承認について 2)2016年度修士論文研究計画書の審査について 3)2016年度非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1)2016年度中間発表会について 2)栄養学科3・4年次生対象の栄養管理学専攻の説明会開催について 3)2016年度 看護学専攻説明会およびオープンキャンパスについて 4)シャーマン教授によるホスピス緩和ケア講演会の開催について
4	2016年7月5日（火）	1. 報告事項 1)三つのポリシー策定義務化に関する省令の改正に伴う検討について 2)休・退学願の手続きに関する申合せについて
5	2016年9月6日（火）	1. 審議事項 1)2016年度特別講師の委嘱について 2)2016年度大学院看護栄養学研究科看護学専攻特別講義について 2. 報告事項 1)2016年度大学院看護栄養学研究科FD研修会について
臨時	2016年9月27日（火）	1. 審議事項 1)2017年度看護学専攻(保健師コース)推薦入学試験の合否判定について
臨時	2016年10月18日（火）	1. 審議事項 1)2017年度一般入学試験(前期)の合否判定について
6	2016年11月1日（火）	1. 審議事項 1)2016年度学位論文関連スケジュールについて 2)2018年度入学試験日程について 2. 報告事項 1)2016年度栄養管理学専攻FD研修会について
7	2016年12月6日（火）	1. 審議事項 1)2017年度看護栄養学研究科学事暦(案)について 2)2017年度非常勤講師の委嘱について 3)2016年度学位論文提出予定者の副査選出について
8	2017年1月11日（水）	1. 審議事項 1)2016年度論文提出による学位申請資格審査並びに主査・副査の選出について 2)2016年度看護学専攻修士論文・課題研究論文の主査及び副査について 3)2017年度非常勤講師・特別講師の委嘱について
臨時	2017年1月24日（水）	1. 審議事項 1)2017年度一般入学試験(後期)の合否判定について 2)2016年度学位論文提出者の主査・副査について 3)学位論文発表会の開催について
9	2017年2月10日（金）	1. 審議事項 1)2017年度非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1)特任教員の雇用契約の更新について

回	開催年月日	審議・報告事項
臨時	2017年2月28日（火）	1. 審議事項 1) 2016年度修了判定について 2) 2017年度非常勤講師の委嘱変更について 2. 報告事項 1) 2016年度看護栄養学研究科学位論文審査報告書について 2) 2016年度論文提出による学位申請者の審査報告書について
臨時	2016年3月17日（金）	1. 審議事項 1) 栄養管理学専攻博士後期課程2年次生の研究指導教員の変更について 2) 2017年度新任教員の新規担当科目について 3) 2017年度学事歴(看護栄養学研究科)の変更について 4) 看護栄養学研究科3ポリシー(案)について 2. 報告事項 1) 2017年度専任教員の新規担当科目(看栄研)について 2) 2017年度専任教員の新規担当科目(看護)について 3) 2016年度年報(自己点検・評価報告書)について 4) 天使大学における競争的資金に係る間接経費の取扱方針について 5) 非常勤講師等の講義料等に関する申合せについて

助産研究科教授会

回	開催年月日	審議・報告事項
1	2016年4月13日 (水)	1. 審議事項 1) 2016年度非常勤講師の委嘱内容の変更について 2) 休学願の許可について 2. 報告事項 1) 2016年度助産研究科教授会構成員について 2) 2016年度校務分掌・委員会構成について 3) 2016年度イースターの集い、および今後の宗務行事の予定について 4) 2016年度合唱コンクール実施について 5) 2016年度学校医(内科医・精神神経科医)について 6) 2016年度天使大学改修工事の予定について 7) 2016年度ホームカミングデーの実施について
2	2016年5月18日 (水)	1. 審議事項 1) 2017年度助産研究科学生募集要項について 2. 報告事項 1) 2017年度日本カトリック大学連盟総会について 2) 第32回カトリック医療関連学生セミナー2016in札幌の開催について 3) 教職員緊急連絡網の取扱について 4) 消防訓練について
3	2016年6月13日 (月)	1. 意見聴取事項 1) 助産研究科教員の退職願について
4	2016年6月24日 (金)	1. 審議事項 1) 学則および履修規程の一部改正について 2. 報告事項 1) 専任教員の新規担当科目について
5	2016年7月22日 (金)	1. 報告事項 1) 休・退学願の手続きに関する申合せについて 2) 成績評価に係る開示請求について
6	2016年8月19日 (金)	1. 報告事項 1) 2017年度人事方針について 2) 将来構想委員会について 3) 休・復・退学願の手続きに関する申合せについて 4) 2016年度第1回FD研修会の開催について 5) 2016年度職員研修会の実施について 6) 後援会地区懇談会および同窓会交流会について 7) 旅費計算の事務取扱要領の変更について 2. 意見聴取事項 1) 教員の採用に係る募集大綱について
7	2016年9月21日 (水)	1. 審議事項 1) 2016年度助産教育分野の修了判定について 2) 非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1) 休学について 2) 2016年度後期宗務行事予定について
臨時	2016年9月28日 (水)	1. 審議事項 1) 2016年度助産基礎分野推薦入学試験の可否判定について
8	2016年10月12日 (水)	1. 報告事項 1) クリスマス関連行事の予定について 2) 教職員修養会の日程について
臨時	2016年10月19日 (水)	1. 審議事項 1) 2017年度助産基礎分野入学試験(前期)の可否判定について
9	2016年11月16日 (水)	1. 審議事項 1) 2018年度助産研究科入学試験日程について 2. 報告事項 1) 教職員修養会の内容等について
10	2016年12月6日 (水)	1. 審議事項 1) 2017年度大学院助産研究科学事暦(案)について 2) 2017年度非常勤講師の委嘱について 3) 2017年度非常勤講師申合せ年齢制限外の委嘱について
臨時	2017年1月11日 (水)	1. 意見聴取事項 1) 教員の採用に係る募集大綱について
11	2017年1月25日 (水)	1. 審議事項 1) 2017年度助産基礎分野入学試験(後期)の可否判定について 2) 2017年度非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1) 2016年度2月以降の宗務行事予定について 2) 2016年度年報の作成および活動報告会の開催について
12	2017年2月15日 (水)	1. 審議事項 1) 2018年度入学式日程等(案)について 2. 報告事項 1) 教員の雇用契約の更新について 2) 2016年度卒業証書・学位記授与式実施要領について 3) 学生証の変更について

回	開催年月日	審議・報告事項
臨時	2017年3月1日（水）	1. 審議事項 1) 2016年度修了判定について 2. 報告事項 1) 教員の退職について 2) 教員の採用について 3) 2017年度会議日程について
13	2017年3月16日（木）	1. 審議事項 1) 2017年度非常勤講師の新規委嘱および委嘱内容の変更について 2) 2017年度授業科目開講期の一部変更について 2. 報告事項 1) 研究生の終了について 2) 2017年度入学式実施要領について 3) 2017年度第1回FD研修会の開催について 4) 2016年度学生による授業評価アンケートの報告書について 5) 天使大学における競争的資金に係る間接経費の取扱方針について 6) 非常勤講師等の講義料等に関する申合せについて 7) 2017年度授業担当科目について

XII. 委員会構成一覧

2016年度 校務分掌 委員会構成一覧

2016. 4. 1

教育研究評議会	学長、看護栄養学研究科長、助産研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、図書館長、宗務部長、教務部長、学生部長、事務局長 助産研究科教務委員長
---------	---

◎学部設置の委員会等

看護学科長 佐藤昇子	栄養学科長 山口教子	教養教育科長 川口雄一						
区分	委員会名	委員長	委員			人数	委員任期	担当事務局
常任委員	教務委員会	川口	教務部長：川口	看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、教職課程委員長	看護：大野 栄養：吉田（真） 教養：日時	8	2年	学務課
	学生委員会	勝野	学生部長：勝野	看護：高橋・田中（さ）	栄養：西・岩淵 教養：田島	6	2年	学務課
	宗務委員会	小原	宗務部長：小原	看護：澤田・臺野 栄養：勝野・長谷川	教養：（小原） 助産：三浦 事務局：菊池、渡邊	8	2年	学務課
	図書情報委員会	大久保	図書館長：大久保	看護：鶴木・伊藤 栄養：清水・岡部 教養：田島	助産：佐々木 図書情報課長	8	2年	図書情報課
	入試委員会	室橋	看護学科長、栄養学科長、教養教育科長	入試・広報室長		8	2年	入試広報室
	広報委員会	菅原	看護：菅原・本宿・若山 栄養：岡部・峯岸 教養：日時	入試・広報室長		7	2年	入試広報室
	自己点検評価委員会	山部	看護栄養学研究科長、助産研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、事務局長	看護：吉田（礼） 栄養：山部 教養：（川口） 助産：園生		10	2年	総務課
	FD委員会	佐藤（香）	看護：荒井・谷 栄養：佐藤（香）・高島 教養：室橋 助産：小林			6	2年	総務課
	学術振興委員会	荒川	看護：柴田 栄養：荒川・西 教養：堀井 助産：小林			5	2年	図書情報課
	地域連携等委員会	本宿	看護：本宿・若山・佐々木 栄養：長谷川 教養：小原 助産：津田			6	2年	学務課
	就職委員会	清水	看護：前田 栄養：清水・百々瀬 教養：新井			4	2年	学務課
	教職課程委員会	新井	教職科目担当：室橋・山部・百々瀬・岩淵・新井			5	2年	学務課
	研究倫理委員会	堀井	助産研究科長、看護栄養学研究科長、事務局長	学長指名：学外有識者2名 看護：吉田（礼） 栄養：鈴木 教養：堀井 小野滋雄・久々湊晴夫		8	2年	財務室
	キャンパス・ハラスメント委員会	荒井	学生部長、事務局長	看護：荒井 栄養：山部 教養：田島 助産：小林	職員：平野	7	2年	総務課
病原体等安全管理委員会	高島	専門：高島・岩淵 感染予防：武藏 学校医：大久保			4	2年	財務室	
特設	学生懲戒委員会	その都度	学生部長、看護： 栄養： 教養： 助産：		5	2年	学務課	
	個人情報保護委員会	その都度	助産研究科長、看護栄養学研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、教務部長、事務局長		7	2年	総務課	
時限設置	カリキュラム検討委員会	武藏	学長 看護学科長 栄養学科長 教養教育科長 教務部長	学務課 事務局長（次長）	10	2年	学務課	
	看護：学生支援教員	1年 3年	◎柴田・荒井・前田・小澤・矢萩・伊織・田中（裕） ◎鶴木・蝦名・大野・佐々木・臺野・若山・（重岡）			2年 4年	◎谷・本宿・伊藤・田中（さ）・富川・中洞・（中山） ◎高橋・針金・澤田・新関・横山・（鈴木）	
	栄養：学生支援教員	1年 3年	◎百々瀬・山部・勝野・西・岩淵 ◎鈴木・荒川・佐藤（香）・村尾			2年 4年	◎岡部・大久保・高島・金澤・松下 ◎清水・吉田・峯岸・長谷川・白幡	
	ヘルスケア実践開発プロジェクト	リーガー 山口	看護：菅原 谷 富川 栄養：山口 清水 百々瀬	助産：今崎				
	後援会講演ワーキング		看護：蝦名・新関 栄養：岩淵・松下 教養：小原 事務局：総務課					

◎ 大学院看護栄養学研究科の科長・専攻主任

研究科長：大久保 岩男	看護学専攻主任：吉田 礼維子	栄養管理学専攻主任：鈴木純子
運営会議	学長	研究科長 教授

\*大学院共管委員会

◎ 大学院助産研究科の科長・委員会等

研究科長：園生陽子				
区分	委員会等名	委員長	委員	
委	運営会議	学長	研究科長 教授	*大学院共管委員会
員	研究科会議	研究科長	研究科員	
会	教務委員会	園生	（講義基礎）津田 小林 佐々木 三浦	（講義教育）園生 （実習）津田 （学生・就職）今崎
等	入試広報委員会	今崎	園生 津田	

XIII. 委員会の活動報告

2016年度 助産研究科教務委員会活動報告

委員会組織	委員長：園生 陽子 委員：今崎 裕子、津田 万寿美、小林 由紀子、佐々木 恭子、三浦 恵津子、 斎藤 慎子
委員会開催数	13回
審議・報告事項	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度臨地実習配置について</li> <li>・休学願いの許可について</li> <li>・2016年度前期試験・評価日程（案）について</li> <li>・2015年度 前期定期試験時間割案について</li> <li>・実習指導教員の委嘱について</li> <li>・2017年度カリキュラム変更「性教育実習」について</li> <li>・「天使大学大学院助産研究科学則」の一部改正（案）について</li> <li>・「天使大学大学院助産研究科履修規定」の一部改正（案）について</li> <li>・定期試験答案用紙のフォーマットについて</li> <li>・授業の出席管理について</li> <li>・2016年度 「助産教育分野」修了判定について</li> <li>・2017年度 教育計画(案)について</li> <li>・2016年度 後期試験日程について</li> <li>・2016年度 特別講師の委嘱について</li> <li>・2017年度 科目担当者および非常勤の委嘱について</li> <li>・2017年度 学事歴について</li> <li>・2017年度 臨地実習施設について</li> <li>・2017年度 予算について</li> <li>・2018年度 入学式日程について</li> <li>・2016年度 「助産基礎分野」修了判定について</li> <li>・2017年度 授業科目担当者一覧について</li> <li>・2017年4月 オリエンテーションについて</li> </ul> <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2015年度 合唱コンクール実施要領</li> <li>・休学・退学手続きの流れについて</li> <li>・2016年度後期時間割（案）について</li> <li>・理事長、研究科長の海外出張とその間の研究科長代理について</li> <li>・ひがしく健康・スポーツまつり 2016 への学部生と教員参加について</li> <li>・前期科目の評価一部訂正について</li> <li>・国家試験前ミサについて</li> <li>・2015年度授業評価アンケート報告書作成について</li> <li>・国家試験模試の進捗状況について</li> <li>・成績評価の入力期間と方法について</li> <li>・非常勤講師等の講義料に関する申し合わせについて</li> <li>・研究生の終了について</li> <li>・院生学習室入室時のテンキー変更について</li> </ul>	

2016年度 入試・広報委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：今崎裕子 委員：園生陽子、津田万寿美</p> <p style="text-align: right;">計3名</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>9回</p>
<p style="text-align: center;">審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年度助産研究科学生募集要項について</li> <li>・2017年度助産研究科入学試験 試験問題出題者について</li> <li>・広報資料「天使大学入学試験に関する情報開示」について</li> <li>・2016年度助産研究科広報活動計画について（助産研究科 オープンキャンパスを含む）</li> <li>・助産研究科パンフレットについて</li> <li>・本学学生への大学院説明会について</li> <li>・新入生アンケートについて</li> <li>・助産研究科ミニオープンキャンパスについて</li> <li>・2017年度大学院助産研究科 推薦入学試験・一般入学試験【推薦書等】の取り扱いについて</li> <li>・本学学生への大学院説明会の反省について</li> <li>・道内看護系大学訪問について</li> <li>・助産研究科オープンキャンパスについて</li> <li>・2016年度 助産研究科オープンキャンパスの反省について</li> <li>・2017年度 助産研究科入学試験 合否判定基準について</li> <li>・2017年度 助産研究科推薦入学試験について</li> <li>・2018年度 助産研究科入学試験日程（案）について</li> <li>・2017年度 助産研究科推薦入学試験 合否判定について</li> <li>・2018年度入学試験における出願資格について</li> <li>・2017年度 助産研究科前期試験 合否判定について</li> <li>・2017年度助産研究科広報活動計画について</li> <li>・2017年度助産研究科 入試・広報委員会予算について</li> <li>・2016年度 年報（入試・広報委員会関係部分）について</li> <li>・2018年度 助産研究科 パンフレットについて</li> <li>・2017年度 オープンキャンパスについて</li> </ul> <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産研究科 ポスター・フライヤーについて</li> <li>・2016年度広報活動に向けた学内勉強会について</li> <li>・助産研究科 入試・広報委員会予算について</li> <li>・2017年度入学試験日程について</li> <li>・2017年度助産研究科パンフレットについて</li> <li>・2017年度助産研究科入試問題作成スケジュールについて</li> <li>・新設看護系大学への広報活動について</li> </ul>	



2016年度 宗務委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：小原琢                  委員：ケン・スレイマン、澤田優美、臺野美奈子、勝野由美子、長谷川めぐみ、                  三浦恵津子、菊池史恵、本田英里（2016年4月1日～6月31日）                  事務局：学務課（渡邊泰央）</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>10回（2017年3月8日現在）</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イースターの集い</li> <li>・聖堂の生花</li> <li>・カトリック医療関連学生セミナー</li> <li>・毎週のミサ</li> <li>・クリスマス関連の日程</li> <li>・クリスマスの集い</li> <li>・死者追悼のミサ</li> <li>・教職員修養会</li> <li>・2017年度宗務委員会活動計画・予算</li> <li>・新年のミサ</li> <li>・退職する教職員のための感謝ミサ</li> <li>・修了・卒業感謝のミサ</li> <li>・自己点検評価報告書</li> </ul> <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出会いと親睦のゼミ</li> <li>・チャペルアワー</li> <li>・フランシスコ・ボランティアキャンプ</li> <li>・退職者の後任人事</li> <li>・修養会</li> <li>・クリスマスオリエンテーション</li> <li>・「学部教授会」、「助産研究科教授会」、「教育研究評議会」への報告</li> </ul>	



2016年度 図書館情報委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：大久保岩男 委員：鶴木恭子、伊藤治幸、清水真理、岡部哲子、田島忠篤、津田万寿美、平野敦子 計 8 名</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>10 回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 後援会助成図書を選定について(継続議題)</li> <li>・ 2016 年度活動計画及び図書資料費予算配分について</li> <li>・ 天使祭の企画及び配布用記念グッズについて</li> <li>・ 「オープンアクセスリポジトリ推進協会」の設立と参加について</li> <li>・ 2016 年度後期開閉館予定表案及び開閉室予定(継続)      ・ 2017 年度前期開閉館予定表(案)(継続)</li> <li>・ メディカルオンライン導入のための和雑誌購読の見直しについて</li> <li>・ 平成 28 年度 ICT 利用による教育改善研究発表会について</li> <li>・ 学内ネットワークサービス利用ガイドライン(学生用)(教職員用)、天使大学情報システム管理運用及び利用に関する規程、SNS 利用の手引きについて(継続審議)</li> <li>・ メディカルオンライン配信状況について      ・ メディカルオンライン掲載雑誌のエンバーゴ問題</li> <li>・ 平成 28 年度教育改革 ICT 戦略大会について</li> <li>・ ペットボトル等の館内持込みについて      ・ 卒論の写メ問題について</li> <li>・ 洋雑誌の 2017 年継続購読について      ・ 和雑誌の 2017 年継続購読について</li> <li>・ 利用者からの要望について</li> <li>①貸出上限冊数の増冊      ②卒業生への図書貸出      ③館内利用パソコンのための電源確保 etc.</li> <li>・ 2017 年度活動計画案及び予算案について      ・ 後援会助成要望書について</li> <li>・ 2016 年度年報：自己点検・評価報告(案)について</li> <li>・ 雑誌の保存期間と製本について</li> <li>・ 図書館利用規程(案)について</li> </ul> <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2015 年度蔵書点検結果報告</li> <li>・ 2015 年度図書資料費執行状況(結果報告)</li> <li>・ 2016 年度図書資料費執行状況(継続)</li> <li>・ 専任職員の 6 月末退職及び 7 月採用について</li> <li>・ 北海道地区私立大学図書館協議会主催第 2 回業務研究会の本学開催について</li> <li>・ 私立学校施設整備補助金による講義室無線 LAN 保守料の補正予算計上について</li> <li>・ 看護学科事例研究複写代の処理方法について</li> <li>・ 看護学科の利用が競合する図書の取り扱いについて</li> <li>・ 館内使用パソコン用コンセント増設(12 口)について</li> <li>・ 年度末の研究費による文献複写等の受付について      ・ 年度末実施予定(蔵書点検、2017 年度準備作業)</li> </ul>	

2016年度 自己点検評価委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：山部秀子                  委員：園生陽子、大久保岩男、佐藤昇子、川口雄一、山口敦子、吉田礼維子、                  岩間久哉</p> <p style="text-align: right;">計8名</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>2回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度活動方針・活動内容について</li> <li>・2015年度年報の作成について</li> <li>・2016年度活動報告会及び年報作成について</li> <li>・2017年度活動計画及び予算について</li> <li>・教員業績について</li> </ul> <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度予算について</li> <li>・「改善報告書」の検討結果について</li> </ul>	

2016年度 FD委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：佐藤香苗 委員：谷規久子、金澤康子、室橋春光、小林由希子</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>12回（臨時委員会含む）</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の出張研修参加について</li> <li>・2016年度のFD研修会について</li> <li>・2016年度第1回FD研修会について</li> <li>・2016年度第2回FD研修会について</li> <li>・第2回FD研修会ワークショップの報告について</li> <li>・授業に関する中間アンケートの実施について</li> <li>・前期授業評価アンケート集計表に係る「自由記載」および「改善の方策」の記載内容公開の是非について</li> <li>・2016年度授業評価アンケート報告書に係る資料について</li> <li>・次年度FD研修会の開催日程調整方法について</li> <li>・2017年度FD委員会活動計画書（案）について</li> <li>・2017年度FD委員会予算（案）について</li> </ul> <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度活動計画および予算について</li> <li>・栄養学科FD委員の交代について</li> <li>・教員の出張研修参加について</li> <li>・FD研修会の開催について</li> <li>・第1回FD研修会の参加者数とアンケート結果について</li> <li>・第2回FD研修会の参加者数とアンケート結果について</li> <li>・2016年度の学生による授業評価アンケートの実施について</li> <li>・授業評価アンケートの今後の予定について</li> <li>・2016年度前期授業評価アンケート集計表の公開について</li> <li>・北海道地区FD・SD推進協議会の加盟と研修会の参加について</li> <li>・北海道地区FD・SD推進協議会の総会について</li> <li>・各種研修会の案内について</li> <li>・道内大学における教員相互の授業参観について</li> </ul>	

2016年度 学術振興委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：荒川義人 委員：西 隆司、柴田和恵、堀井泰明、小林由希子 計5名</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>11回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度委員会運営について</li> <li>・2016年度講演会について</li> <li>・前期研究報告会(案)について</li> <li>・研究に関するアンケート調査報告(案)について</li> <li>・紀要第17巻第1号の応募について</li> <li>・2016年度講演会等の企画について</li> <li>・紀要第16巻第2号の第2次発行について</li> <li>・2016年度講演会企画：実施時期等の再検討      ・講師の決定について</li> <li>・研究報告会について：後期のみの開催決定</li> <li>・研究報告会の開催日程とプログラム(9月学部教授会における特別研究費採択状況報告を受けて)</li> <li>・科研費獲得のための講習会企画に向けて</li> <li>・天使大学紀要投稿規程の一部見直しについて      ・紀要投稿規程の改正案について(継続議題)</li> <li>・天使大学紀要第17巻第1号投稿原稿の紀要掲載可否判定について</li> <li>・2017年度活動計画案及び予算案      左記修正案について</li> <li>・2016年度年報：自己点検・評価報告案について</li> <li>・講演会の本委員会主催に対する学園運営連絡会での意見について</li> <li>・投稿規程改正案の教育研究評議会への提出について</li> <li>・執筆要領の見直しについて</li> </ul> <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紀要第17巻第1号の応募状況について      ・左記の発行について</li> <li>・紀要第17巻第2号の原稿募集について      ・左記投稿申込件数について      ・左記の査読開始について</li> <li>・科研費獲得のための講習会について</li> <li>・2016年度特別研究費による研究報告会の案内について</li> <li>・2016年度講演会について：「災害時における生活支援—中長期的支援に求められる視点—」</li> </ul>	

2016年度 地域連携等委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：本宿美砂子 委員：佐々木雅彦・長谷川めぐみ・小原 琢・津田万寿美</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>9回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座について</li> <li>・2016年度東区5者連携事業について</li> <li>・2016年度委員長不在時の委員長代理について</li> <li>・2016年度「ひがしく健康・スポーツまつり」について</li> <li>・2016年度地域連携事業活動の把握と報告書について</li> <li>・遠別町からの地域連携に関する要望について</li> <li>・平成28年度道民カレッジ「ほっかいどう学」インターネット講座の参加について</li> <li>・2016年度北海道薬科大学との連携事業「夕張地域医療体験」について</li> <li>・2017年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座について</li> <li>・2017年度活動計画および予算について</li> <li>・2016年度自己点検評価について</li> </ul> <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度活動計画および予算について</li> <li>・2016年度区役所と天使大学との年間連携事業について</li> <li>・2016年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座進捗状況について</li> <li>・2016年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座実施・報告について</li> <li>・2016年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座意見交換会実施報告について</li> <li>・2016年度東区5者連携事業について</li> <li>・2016年度「ひがしく健康・スポーツまつり」進捗状況について</li> <li>・2016年度「ひがしく健康・スポーツまつり」実施・報告について</li> <li>・2017年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座の実施案・ポスターについて</li> <li>・2016年度夕張地域医療体験について</li> <li>・平成29年度道民カレッジ連携講座前期分申込、名義後援願について</li> </ul>	

2016年度 研究倫理委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：堀井泰明 委員：園生陽子、大久保岩男、吉田礼維子、鈴木純子、岩間久哉、小野滋男（外部委員）、久々湊晴夫（外部委員）</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>10回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書類提出締切日、審査の段取り、委員会開催日について</li> <li>・研究計画の倫理審査（審査件数 33 件）</li> <li>・倫理審査終了後の研究計画等の変更届について</li> <li>・申請時のチェックリストの更新について</li> <li>・2017 年度予算について</li> <li>・2017 年度活動計画について</li> </ul> <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学における研究計画の倫理審査手続きに関する説明会開催について</li> <li>・国の新倫理指針に合わせた本委員会の新規程について</li> <li>・2017 年度の研修会について</li> <li>・CITI Japan プロジェクトの教材利用を終了し、ICR 臨床研究入門および日本学術振興研究倫理 e-ラーニングコースに切り替える件について</li> </ul>	

2016年度 キャンパス・ハラスメント対策委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：荒井春生                  委員：山部秀子、勝野由美子、田島忠篤、小林由希子、平野敦子、岩間久哉                  計7名</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>3回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度活動方針・活動内容について</li> <li>・講演会の開催について</li> <li>・ガイドライン配布について</li> <li>・ガイドラインの改正について</li> <li>・2017年度活動計画書及び予算について</li> <li>・2017年度講演会の開催及び講師について</li> </ul> <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度予算について</li> <li>・2016年度相談窓口の周知について</li> <li>・2015年度年報資料について</li> <li>・講演会の開催について</li> <li>・ガイドラインの配布について</li> <li>・規定の改正案について</li> </ul>	

2016年度 助産研究科会議報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：園生 陽子 委員：今崎 裕子、津田 万寿美、小林 由紀子、佐々木 恭子、三浦 恵津子</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>12回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独立助産実習施設と院生配置について</li> <li>・基礎実習の院生および教員の配置について</li> <li>・ハイリスク助産演習（MFICU・NICU）院生配置について</li> <li>・発展展開科目である性教育実習単位数の変更について</li> <li>・実習施設就職説明会について</li> <li>・基礎実習要項およびオリエンテーション予定について</li> <li>・臨床指導者会議について</li> <li>・ミニオープンキャンパスについて</li> <li>・オープンキャンパスについて</li> <li>・基礎実習評価について</li> <li>・実習の進捗状況についてと学生の対応について</li> <li>・教育分野修了のミサ、学位記授与、茶話会について</li> <li>・推薦入試役割担当について</li> <li>・前期入試役割担当について</li> <li>・後期入試役割担当について</li> <li>・2017年度 予算について</li> <li>・臨床指導者FDについて</li> <li>・休学者の状況確認と今後の指導について</li> <li>・学習困難者への指導、対応について</li> <li>・2016年度 修了ミサ、学位記授与式の役割担当について</li> <li>・2017年度 授業科目担当について</li> <li>・2016年度 年報作成について</li> <li>・2017年度 委員会・役割分担について</li> <li>・2017年度 実習施設について</li> <li>・2017年度 新入生オリエンテーションについて</li> </ul> <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会報告</li> <li>・2016年度 合唱コンクール実施要領</li> <li>・国際助産実習の日程について</li> <li>・特別統合課題研究について</li> <li>・学会・研究会の開催について</li> <li>・発展展開科目について</li> </ul>	



XV. 図書館利用状況

2016年度入館者統計

学科・学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看護学科	936	1,283	1,678	1,317	760	1,272	1,723	960	1,049	984	401	77	12,440
栄養学科	580	641	748	905	252	618	710	507	384	515	201	109	6,170
助産研究科	145	134	80	43	62	41	94	51	16	15	38	13	732
看護学専攻	47	61	46	51	39	45	30	36	38	27	16	12	448
栄養管理学専攻	4	3	3	4	1	3	5	8	4	4	1	2	42
科目等履修生	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
教職員	217	181	211	150	163	123	160	127	174	128	126	87	1,847
学外者	29	45	41	20	29	20	28	26	16	13	24	16	307
合計	1,958	2,348	2,807	2,491	1,306	2,122	2,750	1,715	1,681	1,686	807	316	21,987

2016年度図書・視聴覚資料貸出統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看護学科	1,041	1,139	1,609	1,238	906	1,467	1,783	1,022	1,129	676	304	136	12,450
栄養学科	353	597	750	659	278	610	583	485	422	192	178	82	5,189
助産研究科	249	219	150	72	89	97	167	74	29	38	62	53	1,299
看護栄養学 研究科	59	113	84	83	66	73	96	63	82	58	44	21	842
科目等履修生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
研究生	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
教職員	229	219	166	101	120	228	185	133	200	111	140	140	1,972
学外者	6	18	40	18	39	4	24	14	5	5	3	0	176
合計	1,937	2,305	2,801	2,172	1,498	2,479	2,838	1,791	1,867	1,080	731	432	21,931

注記：2016年度は、看護栄養学研究科を看護学専攻と栄養管理学専攻に分けず一括した。

XV. 情報処理室の利用状況

年間利用状況

学科・学年 室	看護学科				看護 小計	栄養学科				栄養 小計	各室 計
	1年	2年	3年	4年		1年	2年	3年	4年		
4301室(日中)	1,017	2,009	2,829	2,628	8,483	820	2,544	7,514	2,061	12,939	21,422
4301室(夜間)	123	396	559	1,185	2,263	145	239	434	350	1,168	3,431
4302室(日中)	4,349	2,157	2,352	1,822	10,680	4,573	2,025	4,468	2,342	13,408	24,088
4302室(夜間)	835	555	468	780	2,638	1,363	253	861	361	2,838	5,476
総計	6,324	5,117	6,208	6,415	24,064	6,901	5,061	13,277	5,114	30,353	54,417

月別学科学年利用状況

学科・学年 月	看護学科				看護 小計	栄養学科				栄養 小計	各室 計
	1年	2年	3年	4年		1年	2年	3年	4年		
4	670	479	493	794	2,436	678	254	1,341	564	2,837	5,273
5	546	813	810	1,075	3,244	637	91	2,385	650	3,763	7,007
6	1,047	481	1,407	1,003	3,938	1,246	367	1,967	906	4,486	8,424
7	886	243	574	621	2,324	1,172	533	1,319	533	3,557	5,881
8	3	114	278	168	563	34	26	554	257	871	1,434
9	499	294	458	410	1,661	694	235	1,613	404	2,946	4,607
10	952	745	551	847	3,095	557	326	1,286	710	2,879	5,974
11	668	742	608	899	2,917	693	1,094	702	552	3,041	5,958
12	551	721	355	524	2,151	543	910	1,086	391	2,930	5,081
1	486	447	515	27	1,475	587	1,113	668	67	2,435	3,910
2	13	14	85	17	129	49	92	194	48	383	512
3	3	24	74	30	131	11	20	162	32	225	356
総計	6,324	5,117	6,208	6,415	24,064	6,901	5,061	13,277	5,114	30,353	54,417

XII. 施設・設備の状況

大学設置基準との対比

(単位：㎡)

	大学の現有面積	大学設置基準面積	大学設置基準との差(基準外を除く)
校地面積	30,390	6,910	23,550
校舎面積	14,124	6,402	7,722

校舎内訳

	建設年	経過年数	面積(㎡)	備考
1号館	1976 (S51)	40	937.76	2階建
2号館	1995 (H 7)	21	707.43	2階建 (耐震構造)
3号館	1963 (S38)	53	1,977.01	3階建 (耐震補強済)
4号館	1971 (S46)	45	2,429.06	3階建 (耐震補強済)
5号館	1980 (S55)	36	396.27	2階建
6号館	2000 (H12)	16	2,674.91	6階建 (耐震構造)
7号館	2002 (H14)	14	2,330.13	4階建 (耐震構造)
8号館	2004 (H 7)	12	1,855.69	4階建 (耐震構造)
体育館	1976 (S51)	40	736.52	
中沼グランド 更衣室	1992 (H 4)	24	79.38	平屋建
計	—	—	14,124.16	

学部・大学院研究科ごとの講義室、演習室等の面積・規模

学部・研究科	講義室・演習室・学生学習室等	室数	総面積(㎡)	専用・共用の別	収容人員(総数)	学生総数	在学生1人当り面積(㎡)	備考
看護栄養学部	講義室	12	1,519	共用	1,223	735	2.01	看護栄養学研究科と共用
	演習室	13	402	共用	245	786	0.52	大学院と共用
	学生学習室	2	288	共用	160	735	0.38	
看護栄養学研究科	講義室	/	/	/	/	/	/	
	学生学習室	2	370	共用	92	17	24.72	助産研究科と共用
助産研究科	講義室	2	227	専用	51	34	4.45	
	学生学習室	1	344	共用	82	51	3.96	看護栄養学研究科と共用
体育館		1	737	/	/	/	/	
講堂		1	737	/	/	/	/	

学部の学生用実験・実習室の面積・規模

分 類	室 名	収容人数	面積(m <sup>2</sup> )	1人当り面積(m <sup>2</sup> )
実験・実習室 (看護学科)	第1看護実習室	100	346	3.46
	第2看護実習室	10	41	4.10
	第3看護実習室	20	46	2.30
	第4看護実習室	10	23	2.30
	第5看護実習室	10	27	2.70
実験・実習室 (栄養学科)	理化学実験室	60	223	3.72
	生理学実験室・微生物学実験室	65	205	3.15
	動物実験室	5	6	1.20
	給食経営管理自習室・実習食堂	130	350	2.69
	第2臨床栄養実習室	60	386	6.43
	官能検査室	10	30	3.00
	食品・調理実験実習室(準備室含む)	60	250	4.28
	第1カウンセリング室	3	8	2.67
	第2カウンセリング室	3	9	3.00
	栄養教育実習室	60	155	2.58
	第1臨床栄養実習室	15	45	3.00
実験・実習室(共通)	和室	10	69	6.90
情報処理室	第1情報処理室	60	113	1.88
	第2情報処理室	56	138	2.46
計		747	2,470	3.32

大学院の学生用実験・実習室の面積・規模

分 類	室数	総面積 (m <sup>2</sup> )	収容人数 (総数)	収容人員1人 当りの面積(m <sup>2</sup> )	使用研究科等	備考
実習室	17	2,227	624	3.32	看護栄養学研究科	看護栄養学部と共用
実習室	1	174	40	4.35	助産研究科	
計	18	2,401	664	3.37	—	—

XVII. 財務状況

貸借対照表関係の財務比率表 (％)

	分類	比率	評価	算式	本学園	他法人
1	自己資金は充実されているか	純資産構成比率	△	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	83.6	82.4
2		繰越収支差額構成比率	△	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	△1.6	△10.9
3		基本金比率	△	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.9	96.6
4		積立率	△	$\frac{\text{運用資産}}{\text{基本金要組入額}}$	118.8	81.8
5	長期資金で固定資産は賄われているか	固定比率	▼	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資金}}$	86.4	92.4
6		固定長期適合率	▼	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	81.2	85.2
7	資産構成はどうか	固定資産構成比率	▼	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	72.2	76.1
8		有形固定資産構成比率	▼	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	36.8	66.8
9		特定資産構成比率	△	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	34.5	5.1
10		流動資産構成比率	△	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	27.7	23.8
11		減価償却比率（図書を除く）	～	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得額}}$	58.6	42.2
12	負債に備える資産が蓄積されているか	内部留保資産比率	△	$\frac{\text{運用資産} - \text{総負債}}{\text{総資産}}$	44.6	9.0
13		運用資産余裕比率（単位：年）	△	$\frac{\text{運用資産} - \text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	2.4	0.1
14		流動比率	△	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	249.9	223.0
15		前受金保有率	△	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	264.1	294.8
16		退職給与引当特定資産保有率	△	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	91.3	43.1
17	負債の割合はどうか	固定負債構成比率	▼	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	5.2	6.8
18		流動負債構成比率	▼	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	11.0	10.6
19		総負債比率	▼	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	16.3	17.5
20		負債比率	▼	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	19.6	21.3

(注1) 「評価」は△：高い値が良い ▼：低い値が良い ～：どちらともいえない を示す。

(注2) 「他法人」は「今日の私学財政（大学・短期大学編）日本私立学校振興・共済事業団」より全国の保健系学部の平均を抜粋。

事業活動収支計算書関係の財務比率表

(%)

	分類	比率	評価	算式	本学園	他法人
1	経営状況はどうか	事業活動収支差額比率	△	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△1.1	13.7
2		経常収支差額比率	△	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	△0.2	5.0
3		教育活動収支差額比率	△	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	△0.5	4.6
4	収入構成はどうなっているか	学生生徒等納付金比率	～	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	77.6	51.9
5		寄付金比率	△	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	1.2	3.7
6		補助金比率	△	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	13.7	5.3
7	支出構成は適切であるか	人件費比率	▼	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	68.1	51.0
8		教育研究経費比率	△	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	24.9	33.1
9		管理経費比率	▼	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	6.2	10.4
10		借入金等利息比率	▼	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0	0.2
11		基本金組入率	△	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	11.8	21.8
12		減価償却費比率	～	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	6.3	7.5
13	収入と支出のバランスは取れているか	人件費依存率	▼	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	87.6	98.1
14		基本金組入後収支比率	▼	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	114.7	110.4

活動区分資金収支計算書関係の財務比率表

(%)

	分類	比率	評価	算式	本学園	他法人
1	経営状況はどうか	事業活動収支差額比率	△	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	7.8	13.7

編集後記：

天使大学大学院助産研究科年報 - 自己点検・評価報告書 - 2016 年度版が発行となりました。

年報は、教育研究活動の現状の活動や課題の評価を教職員間で可視化するシステムづくりの一つとして作成されています。

この報告書を土台として、今後も大学の課題を全教職員が認識し、課題の改善に向けた活動へと発展する自己点検評価活動を目指したいと思います。

大学の自己点検評価活動について、今後とも忌憚のないご意見等をお寄せいただきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2017 年 6 月

自己点検評価委員会委員長 山部 秀子

2017 年度 自己点検評価委員会

委員長：山部 秀子（栄養学科）

委員：進藤 正信（看護栄養学研究科長）

園生 陽子（助産研究科長）

佐藤 昇子（看護学科長）

山口 敦子（栄養学科長）

川口 雄一（教養教育科長）

吉田礼維子（看護学科）

岩間 久哉（事務局長）

総務課：上村 俊哉

2016年度

天使大学大学院 助産研究科

年 報

—自己点検・評価報告書—

2017年6月発行

自己点検評価委員会

---

天使大学

〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1番30号

TEL 011-741-1051 FAX 011-741-1077

<http://www.tenshi.ac.jp>

---



